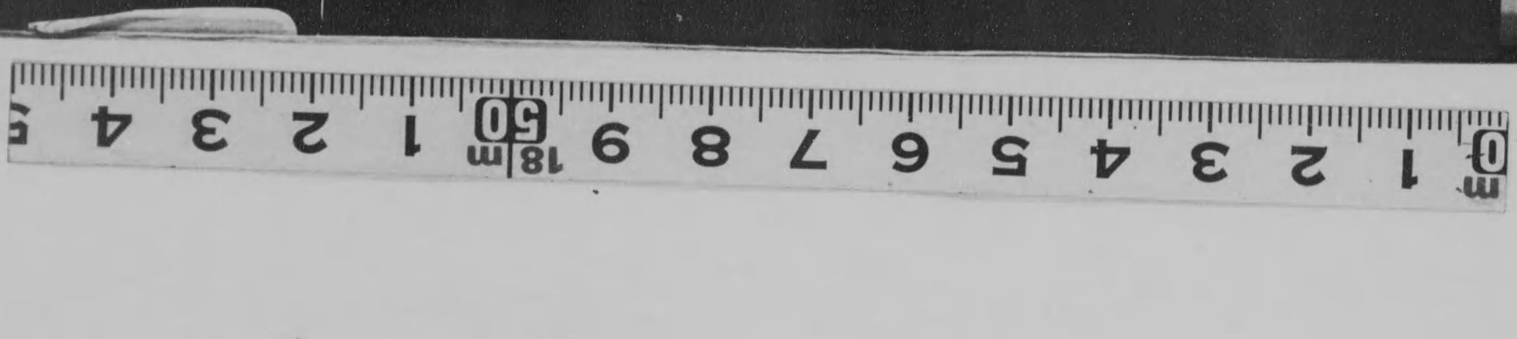
389
13



海難豫防研究第二編

衝突を避くべく

389-13

はしがき

我國現下ノ海事界ヲ見ルニ世界ノ大戰亂ニヨリ海運業ノ興發ヲ來セシ事戰前ニ比シ實ニ隔世ノ感アリト云フベシ國章旗ヲ大西洋上ニ飜シテ世界週航ノ實ヲ擧グルノ日尚遠キニ屬スル如ク思惟サレシ本邦ノ船舶ハ今ヤ堂々トシテ大西洋ノ風波ヲ蹴驅シテ世界各地至ラザルナク國際間ノ信誼ヲ擔フテ人類ノ平等幸福ヲ分布スルノ任ニ當レリ。

斯カル殷盛ヲ來シタル我海事界ハ船舶ノ增加ニツレ益々發展シテ止マザラントス邦家ノ幸福何ニ如ケン然レ共幸福率ノ增加ニ對シ或ル部合ヲ以テ不幸率ノ增加スルハ蓋シ自然ノ數理タリト雲烟過雁視シテ止ムベキヤ不幸率ヲ極限ニ

大正4.11.1
内交

減少セシムル事經世家ノ緊要事務タリト信ズ近來海難ノ瀕々トシテ生ズル是レ決シテ不可抗力ナルモノヽミニアラズ海事界ノ此不幸率タル海難ヲ極限ニ減少スルニアラズンバ折角擔ヒタル全世界ノ信認ヲ失墜スルノ日遠キニアラザルベシ今ヤ海難豫防ノ爲メ充分ナル研究ヲ爲シ其施設ヲ講ゼズンバ邦家ノ海事業ヲ如何ニセン。

茲ニ於テ過去ノ海難ヲ研究シ前車ノ覆轍ニ鑑ミ以テ海難ノ減退ヲ計ルヲ現下ノ急務トナスハ獨リ菲才ノ妄ニアラズト信ズルガ故淺薄ナル研究ナリト雖本書ヲ上梓シ江湖ニ見ユル事蓋シ海事界ノ發展及邦家ノ幸福ヲ思フ意ニ出ヅ此研究タルヤ正鵠ヲ得ズトスルモ海難豫防ヲ以テ邦家ノ急務ト信ズルノ士ハ必ズヤ其所信ヲ披瀝シ叱正敎ユル所アルベク將又海難豫防ノ施設ヲ講ズル事一日モ早カルベシ依テ以テ海難ノ減退ヲ來スヲ得バ我海事界ニ資スル處蓋シ少ナカラザルベシ嗚呼ガマシケレド此研究陳吳ノ旗揚ゲトモナラバ望外ノ榮アリト云フベシ余嘗テ船舶上ニ人トナリ海事界ニ盡スアラント欲セシモ不敏ノ爲メ負傷シ止ムナク船舶ヲ去リタリシガ先輩太田丙子郎氏敗殘ノ身病ヲ養フノ余ニ與フルニ海難研究ノ途ヲ以テス爾後身體及家事都合ニヨリ同氏ノ下ヲ去リタルモ此時扶殖セラレタル海難研究ノ一念胸裡ニ止マリシガ近來海難ノ瀕發スル甚シキニ舊芽目醒ムルモノアリ偶々本年初夏病ヲ脚部ニ得テ以來病床ニ親シムノ身トナリシヲ以テ舊稿ヲ補綴シ漸クニシテ此稿成リシト雖校正熟考スルノ暇ナク刊行ニ附シタルヲ以テ自身ニ於テ尙澁

解晦讀ノ節多シ大方ノ讀者判讀推誦セラレン事ヲ乞フ斯カル澁晦ノモノヲ上梓セシハ此著素ヨリ其任ニ非ズト雖海難豫防ノ實一日モ早カラン事ヲ希フノ意ニ出ヅ諒諾ヲ得バ幸甚。

終リニ臨ミ畏友藤澤十郎、北野勝四郎、谷綠、山口一衛折原久三郎及三上敏雄六氏ノ高援ヲ深謝ス。

大正八年八月三十一日天長ノ賀節稿ヲ終リテ

此頃は少し仕事に興添ふて額にゝじむ汗もなつかし

病床ニ於テ　坂井生

凡例

一、本書ハ汽船ノ海難ニ就テ研究セシヲ以テ帆船及漁船ニ關スル記事ヲ省略セリ

一、本書ハ自明治四十年至大正五年審判裁決書ヲ骨子トシテ研究記述セリ一部民事判決ニ於テ海事鑑定人ノ鑑定ヲ引用セシ判決例ヲ加入セリ

一、本書ハ左ノ書ヲ參考資料トセリ

The law relating to the rule of the road at sea —Smith.

The Seamanship —Knight.

The master mariner's legal guide —Sounder.

一、引用セシ裁決文中被審人氏名ハ之ヲ省略シ同乘組船名ヲ以テ之ニ充テタリ

目次

第二編　衝突ヲ避クベク

第一章　衝突ノ危險……一頁
第二章　衝突ノ危險ニ對スル豫行準備開始時機……三
第三章　豫防法ノ適用……七
（イ）　眞向又ハ幾ンド眞向ノ場合……八
（ロ）　横切リ船ノ場合……二三
（ハ）　帆船避航ノ場合……二八
（ニ）　追越船ノ場合……三五
（ホ）　狹水路運航……四一
（ヘ）　出入港ノ場合……五一

(ト) 霧中航行ノ場合……五八
第四章 臨機處置……六四
臨機處置ヲ採ルベキ時機……六八
(一) 他船ノ違法運航……七五
(二) 第三船介在……七九
(三) 突發危險……八三
第五章 豫防法信號用必要器具……八九
(イ) 燈火信號器具……八九
(ロ) 形象信號器具……一一八
(ハ) 音響信號器具……一二〇
第六章 審判裁決錄ニ對スルル事件別索引（自明治四十年至大正五年）
(一) 眞向又ハ幾ンド眞向ノ場合（第十八條）……一三四

附 右舷對右舷ノ場合……一三五
(二) 横切リ船ノ場合（第十九、二十一、二十二及二十三條）一三六
附 看視不充分……一四二
(三) 追越船ノ場合（第二十四、二十一及二十二條）……一四二
(四) 狹水路運航（第二十五及二十七條）……一四四
(五) 出入港ノ場合……一四六
(イ) 不當速力……一四六
(ロ) 運航不適宜……一四八
(ハ) 潮壓……一五〇
(ニ) 漫然航行……一五二
(ホ) 舵機不注意……一五三
(六) 霧中航行ノ場合（第十六條）……一五三

（七）燈火信號器具（第二、三、十及十一條）……一五五
（八）音響信號器具（第十五及二十八條）……一五七

（第二編了）

第一章　衝突ノ危險

海上衝突豫防法中航方ニ於テ衝突ノ危險（リスクオブコリジョン）ノ定義ヲ與ヘテ衝突ノ危險ハ其現況ニヨリ我船ニ近寄リ來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若シ其方位慥カニ變更スルヲ認メザルトキハ危險アルモノト知ルベシトアリテ「其方位慥カニ變更スルヲ認メザルトキ」ナル字句ヲ以テ之ヲ表示シ其方位變更セザルトキト云ハズ認識方面ヨリ之ヲ表示シテ實體ヨリ説明スルヲ避ケタリ之ハ船舶ノ操舵ナルモノハ多少ノふれヲ伴フ事ヲ顧慮ノ中ニ容レタルモノナルベシ少クトモ帆走船ガ追手風ニテ航走スルトキ一點以内ノふれアル事ノ避クベカラザルハ帆走ノ經驗アルモノヽ等シク認ムル處ニシ

テ又汽船ニ於テモ潮流風力ニ因ラザル唯單ニ操舵ノミニ因ルふれガ〆點位アル事ハ事實免カレザルモノナルガ故ニ其方位變更スルガ如ク又セザルガ如キ疑念ヲ存スル場合ハ方位慥カニ變更スルヲ認メザルトキ即衝突ノ危險アル場合ト見做スヲ至當ナリトス。裁決書ヲ見ル時往々

其方位著シク變更セザルニ拘ハラズ云々

他船ノ方位ノ變更遲々タルニ拘ハラズ云々

ナル字句アリテ其際他船ニ對スル監視充分ナラズ又ハ漫然航行ヲ繼續シ遂ニ衝突ヲ惹起シ懲戒セラレタル例少ナカラズ

又遲々トシテ其方位變更ヲ認ムル場合アリト雖前述ノ操舵ノふれト識別シ難キ事ナルヲ以テ之ヲ危險狀態即衝突ノ危險トシテ認定スルハ衝突豫防ノ意義ニ順ヘルモノト云フベシ其方位變更

衝突ノ危險ノ範圍

セザルトキハ勿論衝突ノ危險ニ陷リタルモノナリ而シテ衝突ノ危險ナル詞ノ中ニハ尙相互距離相接近スルニ拘ラズ他船ノ方位遲々トシテ變更スル場合及他船ノ方位變更スルガ如ク又變更セザルガ如キ場合ヲモ含ムモノナル事ヲ知ルベシ

第二章　衝突ノ危險ニ對スル豫行準備開始時機

衝突ノ危險ヲ認メタル時其現況ニ應ジ海上衝突豫備法ニ準據シ豫行準備ヲ開始セザルベカラズ其場合及之ニ對スル運航ニ關シテハ後章ニ於テ之ヲ研究スベシ

其豫行準備運航タルヤ一方ニ或ハ雙方ニ豫防運航ヲ强制シ又一方ニハ其自由行動ヲ阻止シタルヲ以テ後者ニ於テハ岬角其他ノ

地點ニ於テナスベキ豫定航路轉針及港ノ出入等ニ多少時機ヲ逸スルノ不自由ヲ感ズル事アルベシ而シテ何レノ船舶ニ於テモ此豫行準備ニ就テハ早キニ失シテハ不利アルベク遲キニ失シテハ相互ノ誤解ヨリ危險ニ瀕スル事アルベシ依テ玆ニ此豫行準備ニ着スル時機ヲ研究スベシ

海上衝突豫防法ニ於テ晝間ニ於ケル船舶ノ行動ハ之ヲ注視スレバ容易ニ知リ得ベキヲ以テ之ガ表象トシテ字句ノ上ニ現ハレタルモノハ單ニ檣、煙突及船體ナル文字ノミナレドモ夜間ニ於テハ船舶ノ所在及行動ハ容易ニ知リ難キヲ以テ之ガ表象トシテ燈火ヲ用キシメ燈火ニ對シ種々ナル規定ヲ設ケタリ卽第一條ヨリ第十三條ニ至ル條項ハ悉ク燈火ニ關スルモノナリ

豫行準備ニ着手スベキ時機タルヤ其時機適度ヲ失スレバ不利

visibility of light →
見えない ないとき

ヲ來シ或ハ危險ニ陷ルヲ以テ之ヲ海上衝突豫防文中ニ求ムレドモ何等ノ成文ヲ見ズ然レドモ燈火ニ關スル規定ニ於テ暗ニ此意義ヲ表示セルヲ認ム

一、檣燈ハ五海里以上ヲ舷燈ハ二海里以上ヲ照スベキ事ヲ規定シ

一、碇泊燈及船尾燈ハ一海里以上ヲ照スベキ事ヲ規定セリ

凡ソ船舶航行中海上ニ於テ燈火ヲ發見シタルトキハ之皆注意喚起信號ト見ルベク其燈火ノ種類及其距離ヲ考察シ燈火ノ方法ノ變化ニ注意ヲ拂ヘ衝突ノ危險ノ在否ヲ確ムベシ

單ニ燈火ヲ認メタルノミニテ（但シ距離極メテ接近シタル場合ヲ除キ）直チニ豫防法ノ運航ニ從事シ難キヲ以テ之ガ監視ヲ充分ニ爲シ其燈火ガ汽船ノ檣燈一個ナルトキニ直チニ其進行方

向ヲ確認スル事困難ナルヲ以テ舷燈ヲ見ルニ及ンデ始メテ衝突ノ危險ニ對スル豫行準備ニ移ルヲ適當ト爲スベシ

但シ二個ノ檣燈即增掲燈ヲ有スル船舶ハ直チニ其進行方向ヲ察知セシムル事ヲ得ト雖此增掲燈ハ豫防法上掲揚ヲ認許セルモ未ダ强制掲揚點燈ニアラザルヲ以テ本問題研究ノ材料トハナシ難シ

前述ノ如ク舷燈ヲ見ルニ及ンデ豫行準備ニ出ヅルヲ至當トセバ舷燈ノ光達距離ヲ以テ豫行準備ヲ開始スル時機ト看做スベシ

即

豫防法ニ依ル運航ハ距離二海里ニ接近スルニ及ンデ開始スベキモノトスト云フニ歸スベシ

但シ高速力ノ船舶ニ採リテ二海里航走ハ餘リ餘裕アルモノト

見ル可カラズ今後一般ニ高速力ヲ以テ航走スル時機ニ至ラバ燈火ノ光達距離ヲ遠大ナラシムルノ必要アルベシ

又碇泊燈ノ規定ヨリ見レバ航行セザル船舶ニ對スル危險ハ一海里ノ距離ヲ以テ法ノ認ムル處トナスベク又追越船ノ場合モ亦同ジク一海里ニ近ヅキタルトキヨリ危險豫防ノ手配ヲ要求セリ即チ法ハ航行セザル船及同方向航行船ニ對シ一海里ヲ以テ危險認知ノ區間トナシタルニ對シ相互行違航行船舶間ニ於テハ二海里ヲ以テ危險認知區間トナシタルハ理ノ來ル處相同ジ

第三章　豫防法ノ適用

衝突ノ危險ノ生ズベキ重ナル場合ハ

衝突ノ危險ニ對スル豫行準備

(イ)眞向又ハ幾ンド眞向ノ場合
(ロ)横切船ノ場合
(ハ)帆船避航ノ場合
(ニ)追越船ノ場合
(ホ)狹水路航行ノ場合
(ヘ)港口出入ノ場合
(ト)霧中航行ノ場合

等ニシテ順次之ニ對スル豫行準備ニツキ豫防法ノ適用ニツキ研究ヲナスベシ

(イ)眞向又ハ幾ンド眞向ノ場合

條項

第十八條　二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ンド眞向ニ行逢フテ衝

紅對紅綠對綠他船又ハ自船

突ノ虞アルトキハ兩船トモ針路ヲ右舷ニ轉ジ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行キ過グベシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ンド眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アル時ニ限リ適用スベシ兩船各其針路ヲ保チテ互ニ替ハリ行クトキニハ適用スベカラズ

本條ヲ應用スベキ場合ハ兩船トモニ正シク眞向又ハ幾ンド眞向ニ行逢ヒタルトキ即晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ンド一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルベシ

本條ハ晝間他船ノ我鍼路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見ズシテ紅燈ヲ見

ガクロツシングポイントニアリ

或ハ紅燈ヲ見ズシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スベカラズ

正シク眞向又ハ幾ンド眞向ノ場合ニハ兩船トモ舵柄左舷針路右轉ヲ命ゼラレ速力其他ニ關シ何等特殊ノ運航ヲ要セズ

此場合ノ關係ハ晝間ニ於テ識別困難ナラザルモ夜間ハ於テハ舷燈ノ視位ニ依ルモノニシテ燈火明瞭ニシテ第二條第四號規定ノ如クナランニハ識別容易ナルベシト雖兩舷燈ノ掲揚位置又ハ船型卽船幅ノ廣狹ニヨリ舷ヲ交リテ多ク見ユルモノト然ラザルモノトアルベク各船トモ一樣ニ舷ヲ交リテ見エザル裝置ナランニハ容易ニ本條ノ場合ニ對シ安全ナル航路ヲ採ルヲ得ベシ

由來本條第三項及第四項ニ於ケル說明ハ舷燈ニ對シ規定セル本法

第二條

四、本條第二項及第三項ノ舷燈ハ其燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其燈ノ內側ニ裝置シ右舷ノ綠光左舷ニアル船ヨリ左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得ザル樣ニナスベシ

ニ全然合致シ得ルモノトシテ立案セラレタルモノナルベシ而シテ舷燈ガ舷ヲ更リテ見エザル裝置ガ可能ナリヤ否ヤニ付テハ豫防法用信號器具ノ章ニ於テ研究スベキモ絕對的ニ可能ト云フヲ得ズ射光範圍內ニ眞射光ト影射光トアルヲ以テ舷燈ノ射光ガ舷ヲ交リテ見ユルコトアリトスレバ小角度ノ橫切リ船ト本條ノ場合トノ區別判然セズ往々誤認ヲ來ス事アリ裁決書中

明治四十年二月野忽那島附近ニ於テ衝突セル神州丸對デバナ號

事件ノ如キ

地方審判所ニ於テ

兩船互ニ二/四點ノ交叉角ヲ以テ向キ逢ヒ進航中デバナ號ガ神州丸ノ船燈ヲ認ムル以前既ニ(神州丸船長)ニ於テ自船ノ殆ンド船首ニ當リデバナ號ノ兩舷燈ヲ認メ當時航差及前路ノ障害ヲ顧慮スル餘リ同船ヲ我右舷側ニ通過セシメントシテ船首ヲ少シク左轉シ爲メニ兩舷燈若クバ時々綠燈ノミヲ右舷船首ニ認ムルニ至リ其儘兩船相接近スルニモ拘ハラズ敢テ衝突ノ虞ナシト誤信シ第十九條ノ規定ニ背キ危險切迫スルニ至ルマデ避讓ノ措置ヲ施サヾリシ職務上ノ懈怠ニ起因シ云々

トアリテ小角度ノ横切リ船ノ場合トシテ認定セラレタルガ高等審判所ニ於テハ

神州丸ガ殆ンド其船首ニ他船ノ兩舷燈ヲ認メタルトキ豫メ衝突ノ危險ヲ防グニ必要ナル處置ヲ施サズ反ツテ兩船接近シデバナ號ノ綠燈ヲ船首ヨリ稍右方ニ認メタル場合ニ於テ船首ヲ右轉シタル過失ニ起因スト雖デバナ號ニ於テモソノ航路ヨリ稍右舷ニ在リタル神州丸ガ左舷ニ在リテ本船ノ航路ヲ避クベキモノト誤認シタルノミナラズ其方位著シク變更セザルニ拘ラズ危險切迫ニ至ル迄衝突ヲ防グノ措置ヲ怠リタルモ亦本件ノ一因ナリトス云々

トアリテ之ヲ始メハ幾ンド眞向船ノ場合ナリト認定シ後ニ兩船接近シタル際綠對綠ノ場合トシテ裁決ヲ與ヘタリ又

明治四十一年三月惠山岬燈臺沖ニ於テ衝突シタル秀吉丸對陸奥丸事件ノ如キ地方審判所ニ於テハ秀吉丸ガ第十八條違背トシ

テ裁決セラレタルニ對シ高等審判所ニ於テハ陸奥丸ガ第十九條及第二十二條違背セリトノ裁決ヲナシタリ

斯ノ如ク小角度ノ横切船ト幾ンド眞向キ船ノ場合及同舷相對船ノ場合トノ紛擾スル事ハ畢竟ズルニ舷燈ノ射光圏ガ前述ノ如ク正確ニ遮光シ難キ事及其視距離ニ於テ相違スル事其因ヲナスモノナルベシ又前章衝突ノ危險ノ章ニ於テ述ベタル如ク⅞點位ノふれハ汽船ニ於テモ免ガレ難キモノナルヲ以テ⅞點位ノ交叉角ハ交叉アル如ク又交叉ナキ如キ場合ト見ルヲ妥當トスベシ又裁決書上ニモ¼點ノ交叉ヲ幾ンド眞向ノ場合トセリ卽

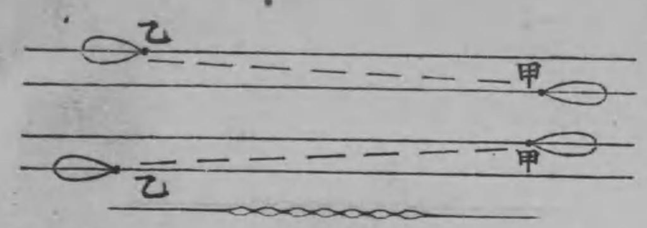
久保丸土州丸衝突事件（裁決錄明治四十五年五七頁）

元來兩船ハ僅カニ約四分ノ一點ノ交叉角度ヲ有スルニ過ギザル針路ニ於テ幾ンド眞向ニ行逢フテ航行シ當初久保丸ヨリハ船首稍右方ニ他船ノ燈火ヲ認メ又土州丸ヨリ船首稍左方ニ他船ノ燈火ヲ認メタルモノニシテ其後互ニ他船燈火ノ方位變更如何ニ注意スルトキハ其著シク變更セズシテ常ニ前面ニアリ兩船衝突ノ虞アルコトヲ認知シ得ベキニ拘ラズ各船長ニ於テ此注意ヲ怠リ兩船極メテ接近スルニ至ル迄衝突豫防ノ手段ヲ採ラザリシハ本件衝突ノ主因ヲ爲シタルモノトス

トアリテ兩船トモ第十八條ノ規定ヲ守ラズ危險切迫スルニ及ビ久保丸ハ船首ヲ少シク左轉シ機關全速力後退ヲ令シ土州丸ハ船首ヲ右轉シタルモ却テ危險ニ瀕セルニヨリ機關運轉ノ全速力後退ヲ令シタルモ其効ヲ奏スル遑ナク遂ニ衝突セリ

幾ンド眞向ノ場合ニ就テ研究スルニ

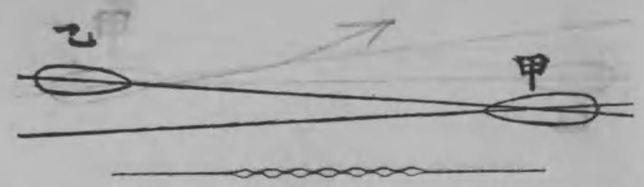
兩船間ノ距離ヲ二浬トシ兩船ノ速力大差ナシト假定ス（距離



二浬ヲ標準トシタルハ前述ノ豫行準備着手スベキ好時機ナルヲ以テナリ）

一、兩船共ニ相互同舷船首7/4點位ニ他船ノ兩舷燈ヲ見兩航路線並行ノ場合ニハ兩船其儘針路ヲ保守スルモ兩船ハ一鏈ノ距離ヲ距テ、無難ニ替ハリ得ベキ理ナリ（勿論視方位ハ距離一浬ヲ於テ7/2點半浬ニ於テ一點7/4浬ニ於テ約二點ニ變化スベシ）然レドモ此際最安全ニ航過セント欲セバ本法ニ遵ヒ少シク舵柄左舷船首右轉シ他船ノ綠燈ヲ視界ヨリ驅除スルニアリ

此方法ハ兩船トモ其左舷船首ニ他船ヲ認メタルトキハ易々タリト雖各右舷船首ニ他船ヲ認メタルトキ舵柄左舷ハ本條二項末節ニ違反スルカノ如ク感ズルモノナレドモ今日迄ノ衝突事件ニ於テ小角度ノ綠對綠場合事故最モ多キヲ以テ見レバ此場合ニ於



テ綠燈ヲ視界ヨリ葬ル事ハ安全航法ニシテ衝突豫防ノ精神ニ妥合スルモノナリト云フベシ

二、甲船ガ乙船ノ兩舷燈ヲ右舷船首7/4點位ニ認メ乙船ハ主トシテ甲船ノ綠燈ヲ正船首ニ認メタル場合ニ於テ甲船ハ本法ニ遵ヒ船首右轉スルトキハ紅對紅トナリ安全ニ替ハリ行クベシ此際乙船ハ他船ヲクロッシングポイント上ニ認ムルヲ以テ輕卒ニ船首變轉ノ運航ヲナス可カラズ本船ハ甲船ノ右舷側ニアルヲ以テ豫防運航ノ必要ハ甲船ニアリ然レドモ甲船ニシテ依然綠光ノミヲ示シ航行シ來リ距離接近シタルトキハ他船ハ本船々首右舷側ニ認ムルニ至ルベク其際近距離航過危險ナリトセバ綠對綠ノ航行ヲ鮮明ナラシム可ク船首左轉スルヲ至當トス他船ガクロッシングポイント上ニアル時ニ操舵轉首スルハ豫防法ノ意ニ合致スル

モノニアラズ

三、甲船ガ乙船ノ兩舷燈ヲ左舷船首7/4點位ニ認メ乙船ハ主トシテ甲船ノ紅燈ヲ正船首ニ認メタル場合ハ甲船ハ前者ト同ジク幾ンド眞向キノ場合トシテ船首右轉スルトキハ轉首7/4點ニシテ紅對紅ヲ鮮明ナラシムルヲ得ベク乙船ハ甲船ノ紅燈ヲ認ムルヲ以テ甲船ノ左舷側ニアリ故ニ甲船ヲ横切船ノ場合トスレバ甲船ハ針路ヲ保守スベキヲ以テ本船ニ於テ危險ヨリ遠ザカルベキ手段ヲ講ズルヲ至當トス即船首右轉紅對紅ヲ鮮明ニシ以テ安全ナル航行ヲナスベシ

(二)及(三)ノ場合ヲ綜合スレバ

他船ノ兩舷燈ヲ船首(兩舷共)7/4點位ニ認メタル船舶ハ幾ンド眞向ノ場合トシテ船首右轉スベク(第一ノ場合ト同ジク)

他船ヲクロッシングポイント上ニ認メタル船舶ハ他船ノ紅燈ヲ見タル場合船首右轉ヲナスベク其綠燈ヲ認メタル場合ニハ輕卒ナル操舵ヲ見合セ他船ノ行動ヲ充分監視シ距離接近スルニ及ンデ鮮明ノ行動ヲ採ルヲ以テ豫防法ノ意ニ遵フモノト云フベシ

四、甲船ハ乙船ノ兩舷燈ヲ右舷船首7/4點位ニ認メ乙船ハ甲船ノ兩舷燈ヲ左舷船首7/4點位ニ認メタル場合ニ於テ兩船共船首右轉スル事ハ前掲ノ(二)及(三)ニ於ケル甲船ノ場合ト同ジ卽(二)ノ甲船ハ本項ノ甲船ノ場合ニシテ(三)ノ甲船ハ本項ノ乙船ノ場合ト見做スベシ

以上ノ場合ニ於テ最モ危險ナルハ(二)ノ場合ニシテ甲船ハ乙船ヲ右舷船首ニ認ムルヲ以テ船首左轉ヲ企ツル意志ト幾ンド眞向ノ場合ナル感念ト相錯雜シ轉舵ニ對シ決意不安ヲ感ズベク乙

船ハ狀況將ニ緑對緑ニ推移シ行ク場合ナルヲ以テ並航距離ヲ廣カラシメン希望ト本船ガ甲船ノ右舷側ニアルヲ以テ甲船ニ於テ避讓スルニ對シ本船ノ針路ヲ保守セザル可ラザル豫防法上ノ感念ト紛糾シ操舵ニ不安ヲ懷クベシ此兩船共ニ不安ヲ懷クハ如上ノ場合ニシテ他ノ三者ノ場合ハ必ズ小クトモ一船ニ於テ豫防法上ニ確立セル操舵法ヲ採リ得ルヲ以テ比較的無難ナルベシ

緑對緑ニ推移シ行ク場合ノミナラズ已ニ甲船ガ針路ヲ保守シクロッシングポイントヲ通過シタル場合ニ即緑對緑ニナリシ場合ニ於テ衝突ヲ來シタル事件ハ蓋シ此兩船ノ運航不安ニ虜ハレタルモノナルベシ高等審判所裁決ノ

神州丸デバナ號衝突事件

神州丸デバナ號衝突事件（大正五年二月十二日）

ノ如キ又大審院判決

住江丸日進丸衝突

住江丸日進丸衝突事件

ノ如キ緑對緑ニナリタル後ニ於テ衝突ヲ惹起セリ

由來豫防法上舵柄右舷ハ必要視セラレザル感アリ即

第十八條ニ於テハ船首右轉ヲ命ジ

第十九條ニ於テハ他船ヲ右舷ニ見ル船ニ於テ避讓スベク命ジ其避讓法ニ關シテハ

第二十二條ニ依ッテ他船ノ前面ヲ横切ルベカラザルヲ以テ即横切船ノ場合右舷ニ見ユル船ノ前路ヲ横切ラザル操舵方法ハ舵柄左舷ノミ

第二十五條狹水路航法ハ命ジテ右側航行ヲ强行スルヲ以テ他船トノ衝突ヲ避クベシトナセリ

サレバ豫防法上舵柄右舷ノ操舵ハ帆船等ヲ避クルトキ及追越

船ノ場合ニ使用スル事ヲ得ル外ハ臨機ノ處置トシテ使用スル場合ノミト云フベシ

（ロ）横切（クロツシング）リ船ノ場合

條項

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避ク可シ

參照第二十一條第二十二條及第二十三條

横切リ船ノ場合ニ於テ豫防法ノ命ズル處ハ他船ヲ右舷ニ見ル船ニ於テ他船ノ航路ヲ避クベシト云フニアリ

今互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アル場合兩船ノ運航ヲ研究スルニ當リ他船ヲ右舷ニ見ル船ヲ（甲）トシ他船ヲ左舷ニ見ル船ヲ（乙）トス

（甲）ハ本條ニヨリ（乙）ノ航路ヲ避ケザル可ラズ而シテ其避讓方法トシテ第二十二條

本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クベキ船ハ成ルベク他船ノ前面ヲ横切ルベカラズ

ニヨリ事情ノ許ルス限リ他船ノ前面ヲ横切ルベカラズ尚第二十三條

本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クベキ船ハ他船ニ近寄リタルトキ時宜ニ應ジテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スベシニヨリ操舵ノミニシテ避讓シ能ハザルトキハ速力ノ減退ヲ講ジテ避讓スベキ事ヲ命ゼラル

（乙）ハ第二十一條ニ於テ

本法航方ニヨリ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ

他船ニ於テ其鍼路及速力ヲ保ツベシ

ニヨリ其針路及速力ヲ保ツベシ

即チ(甲)ハ(乙)ノ航路ヲ避クルニ當リテ普通其前面ヲ横切ルヲ得ザルガ故ニ其針路ヲ右轉シ(乙)ノ後方ヲ通過スベシ而シテ針路ヲ右轉スルヲ得ザル場合及右轉スルモ衝突ノ虞レアル場合ニハ速力ヲ減ジ或ハ後退ヲナシ(乙)ヲ通過セシムベシ此際航路信號及避讓ノ度合ハ他船ヲシテ誤認セシメザル事ニ注意スベシ

乙ハ臨機ノ處置ヲナスベキ時機ニ至ルマデハ現狀維持卽針路及速力ヲ保守スベク他ノ理由ノ下ニ現狀維持ヲ破ル可ラズ是乙船ノ當然守ルベキ義務ナリ

他船ヲ左舷ニ見ル船(曰謂權利船)ガ轉針地點ニ達シタル理由ノミヲ以テ他船ニ注意セズシテ轉針シタル爲メ第二十一條第一項違背トシテ懲戒セラレタル例アリ

速鳥丸第一太湖丸衝突

大正三年十月玄海島沖ニ於テ衝突シタル

速鳥丸對第一大湖丸衝突事件ニ對スル地方審判所ノ裁決(裁決錄大正四年一六七頁)

第一太湖丸ガ他船ノ白綠二燈ヲ本船ノ左舷船首ニ認メツヽアリタル場合ナリシヲ以テ海上衝突豫防法第二十一條第一項ノ規定ニ遵ヒ針路及速力ヲ保守スベカリシニ拘ラズ單ニ同船長ガ平素慣用ノ轉針地點ニ達シタリシノ故ヲ以テ漫然船首ヲ左轉シタルト相當ノ距離ニ於テ他船ガ短聲一發ヲ吹鳴シタルモノヲモ顧慮セズ飽クマデ左轉ヲ繼續シタルトノ職務上ノ過失ニ起因シ云々

又高等審判所ニ於テ(裁決錄大正四年二六一頁)

第一太湖丸ガ他船ノ白緑二燈ヲ本船ノ左舷船首ニ認メ衝突ノ虞レアル場合ニ海上衝突豫防法第二十一條ノ規定ニ遵ヒ其針路及速力ヲ保守セズシテ船首ヲ左轉シタル職務上ノ過失ニ起因シ云々

ノ裁決アリ又朝鮮甫竹角南方ニ於テ衝突シタル滿珠丸唐山丸衝突事件（裁決錄大正四年二七六頁）ハ滿珠丸ガ唐山丸ヲ左舷ニ認タルニ拘ラズ甫竹角ニ並ビテ轉針セシ事件海上衝突豫防法第二十一條ニ違背シタリトノ裁決アリ

又神子元燈臺南方ニ於テ衝突セシ高砂丸工作船關東丸衝突事件（裁決錄大正三年六九頁）ノ裁決文中横切船ニ對スル法文ノ解釋ヲ與ヘテ第十九條ノ規定ニ依リ他船ノ航路ヲ避クベキ船舶ハ自他積量

滿珠丸唐山丸衝突

高砂丸關東丸衝突

ノ大小速力ノ緩急其他航海上諸般ノ狀況ニ鑑ミ他船ヲ完全ニ避ケ得ベキ時機ニ於テ轉ズルノ自由ヲ有スルヲ以テ之ニ對スル權利船ハ同法第二十一條ノ但書ニ掲グル場合ノ外嚴ニ其速力及航路ヲ保守スベキコトハ是亦同法本文ノ解釋トシテ動カス可カラザル處ナリトス

トアリテ衝突前約十一分時ニ他船トノ間隔尚二海里許リノ餘地ヲ有シタルニ拘ラズ關東丸（權利船）ガ船首ヲ右轉シタルハ第二十一條違反ナリト裁決セリ

即前述ノ乙船ハ臨機處置ヲ採ル時機ニ至ルマデハ絶對ニ針路及速力ヲ保守セザル可カラズ

狹水路、出入港及霧中航行ノ場合ニ於テ本條ヲ遵守スベキヤ否ヤノ問題ニツイテハ各項目ノ下ニ研究スベシ

條項

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノヲソレアルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クベシ

卽チ豫防法ノ命ズル所ハ汽船ハ常ニ帆船ノ航路ヲ避讓セザルベカラズト云フニアリ

一艘ノ帆船ニ對シ汽船ガ帆船ニ避讓スルハ易々タル事ナリト雖モ帆船群走スル時ニハ之ヲ總テ避讓スルハ頗ル困難ノ事ニ屬ス然レ共法ニ遵フテ避讓セザルベカラズ而シテ第二十一條ニヨリ成ベク帆船ノ前路ヲ横切ルベカラズト規定束縛セラル一艘ノ帆船ノ前路ヲ横切ラズシテ避讓スルハ難事ニアラザルモ群走スル帆船ノ總テノ前路ヲ避讓スルハ困難ナル事ナリ之レヲ成サントスレバ第二十三條ノ規定ニ遵ヒ速力ヲ減退スル外ニ途ナカルベシ此塲合ニ於テ帆船ハ其針路及速力ヲ保タザルベカラズ故ニ帆船ニ於テ逆轉ヲナストキハ違法ナリ爲ニ衝突セルトキハ其責ヲ負ザルベカラズ多年ノ裁決例之ヲ示シテ餘リアリ

汽船ハ帆船ノ航路ヲ避クベク命ゼラレタリト雖モ多數ノ帆船左右ヨリ相迫ルトキハ其前路ヲ横切ル事不可抗力ト見做スベシ而シテ群走ノ帆船ニ對シ汽船ノ困難ヲ感ズルハ蓋シ狹水路ニ於テ多シトス狹水路ニ於テ汽船ハ右側航行ヲ命ゼラル、ガ故ニ前路及左側ニ於テ多クノ危險分子タル帆船ノ航走ヲ見ルベシ此際ニ於テ汽船ハ如何ニナスベキヤト云フニ隨時速力ヲ減退シ時ニヨリテハ帆船ノ前路ヲ横過スルノ擧ニ出ヅル外ナカルベシ

裁決錄ヲ見ルニ汽船對帆船ノ衝突ハ主トシテ帆船ノ燈火滅失

セルニ在リ次ニハ逆轉ヲナセルモノニシテ明瞭ナル燈火ヲ有シ針路及速力ヲ保テル帆船ガ汽船ト衝突セル例極メテ少ナシ故ニ汽船ニ採リテハ帆船ニ對シ一艘或ハ同一方向航行ノ帆船ニ對シテハ轉舵シテ之レヲ避クルヲ得ルト雖モ多數ノ帆船群走セル際ハ轉舵ヨリモ速力ヲ加減シテ之ヲ避讓スル事良策ナリト信ズ

第二十一 觀音丸帆船日吉丸衝突

譬令帆船ニ於テ針路ヲ保守セザリシトスルモ汽船ニ於テ唯單ニ操舵ノミヲ以テ避讓方法ヲ講ジ衝突シタル時ハ汽船モ亦責ヲ負ハザルベカラズ其例

第二十一觀音丸帆船日吉丸衝突事件（裁決錄明治四十一年一八一頁）

主トシテ帆船日吉丸ガ第二十一觀音丸ノ左舷側ヲ航行セント欲シ之ニ接近シタル場合ニ於テ針路ヲ右轉シ且ツ該船ニ於テ左轉信號ヲ爲シタルニモ拘ラズ依然同一方向ニ進行シタル過失ニ起因スト雖第二十一觀音丸ニ於テ日吉丸ノ船燈ガ前路ヲ離隔セズシテ本船々首ニ接近スル場合ニ於テ本船ノ速力ヲ緩メズ衝突ニ至ル迄全速力ノ儘航行シタルハ衝突ヲ避クル注意十分ナラズ

浪速丸帆船寶求丸衝突

汽船ガ四圍ノ狀況ニ注意セズシテ避讓ノ時機ヲ逸シ衝突ヲ惹起シタルキトハ汽船ニ於テ其責ヲ負ハザルベカラズ

下關海峽與次兵衛立標附近ニ於テ衝突セル

浪速丸帆船寶求丸衝突事件（裁決錄大正三年四五頁）

本件衝突ハ三隻ノ帆船中第二船ガ浪速丸ノ前路近距離ニ於テ突然逆轉ヲ行ヒ爲メニ浪速丸ヲシテ運航上齟齬ヲ生ゼシメタルコト亦一因タリト雖主トシテ浪速丸ガ狹隘ナル水路ヲ航行スルニ當リ本船ノ前路近距離ノ所ニ於テ是等帆船ニ出會シタ

ル場合其行動ヲ詳カニシ得ザリシニモ拘ラズ速カニ避讓ノ手段ヲ採ラズシテ漫然進行シタル職務上ノ過失ニ起因シ云々

浪速丸ハ右舷船首一點位ニ方リ距離凡ソ一鏈半ノ所ニ於テ總帆ヲ展シ各一鏈位ノ間隔ニテ北東ノ方位ニ雁行スル三隻ノ帆船ヲ認メ是等各船ノ船尾ヲ通過セントシ汽笛短聲一發ヲ吹鳴スルト共ニ船首ヲ約一點右轉シ第一船ノ船尾ニ向ッテ進行シタルニ同船ハ逆轉ヲ行ヒ本船ノ前路ヲ横斷スルノ方向ニ轉ジタルヲ以テ再ビ原針路ニ復スルト同時ニ半速力トナシ同船々尾ヲ替リシトキ第二船ハ本船ノ前路約十間餘ノ所ニ在リシヲ以テ更ニ其船尾ヲ通過スル目的ニテ短聲一發ト共ニ船首ヲ右轉シタルモ第二船ハ第一船ニ倣ッテ突然逆轉ヲ行ヒタルニ由リ直チニ舵柄右舷一杯ヲ令シ船首ヲ激左轉シ機關停止ニ踵テ全速力後退ヲナシ辛フジテ之ヲ避讓シ得タル刹那第二船ノ船尾ヨリ更ニ第三船ノ進行シ來ルニ出會シ船首ヲ左轉シ大聲疾呼之ガ右轉ヲ促シタルモ其効ナク惰力進行ノマヽ衝突セリ

如上ノ場合浪速丸ハ避讓方法ニ於テ大ニ努力セシ如クナルモ審判ニ於テ「速カニ避讓ノ手段ヲ採ラズ漫然進行シタル」モノナリトノ裁決ノ意味ハ帆船ノ行動ニ關スル充分ナル注意ヲ缺キ適機速力ヲ減ジ避讓セザリシ點ニアルベシ帆船ガ狹水路ヲ縫行スルトキニハ逆轉ノ時機アリ且ツ汽船ノ如ク速力ノ加減ヲナス事ハ困難ナルヲ以テ是等ヲ洞察シ避讓方法ヲ講ズル事ヲ汽船ニ要求シタルモノナルベシ而シテ洞察シ得ザル場合ハ汽船ハ他船ノ行動不明ナルモノトシテ速力ヲ減退シ臨機ノ處置ニ出デザル可カラズト云フニアルベシ

第五盛運丸帆船五明丸衝突

美代丸帆船朝日丸衝突

第五盛運丸帆船五明丸衝突事件（裁決錄明治四十四年六十二頁）

本件衝突ハ第五盛運丸ガ數多帆船ノ溯航セル狹隘ノ水道ヲ强ツテ通過セントシタル職務上ノ過失ニ起因シ帆船五明丸ハ海上衝突豫防法第二條第二項第三項ノ燈火ヲ表示セザリシモ燈火ノ如何ハ直接本件ニ關係ヲ有セズ

ノ如キ舷燈ヲ表示セザル帆船ト衝突セシ事件ニ於テ帆船群走ノ狹水路ヲ汽船ガ强行セシコトヲ以テ衝突ノ原因トセリ

美代丸帆船朝日丸衝突事件（裁決錄大正二年八十六頁）

ニ於テ美代丸ハ三隻ノ最先ノ帆船ガ左舷船首約五點距離二三鏈ノ處ニ來リ本船ノ前面ニ接近セントスルヲ以テ汽笛短聲三發ヲ吹鳴シ全速力後退ヲ爲シ依然右轉ヲ繼續セントシタルニ之レト殆ンド同時ニ該帆船ハ船首ヲ起シ潮流ニ乘ジ益々本船ニ接近シ來リ遂ニ衝突セシ事件ハハ汽船ノ處置適法ト認メラレ

帆船朝日丸ニ於テ海上衝突豫防法第二十一條ニ違背シ針路ヲ保守セザリシ過怠ニ起因スルモノニシテ美代丸ノ措置ハ咎ムベキ廉ナシ

ト裁決セラレタリ

帆船ノ速力汽船ヨリ大ニシテ汽船ヲ追越ス場合ハ追越船ノ場合ト見ルベク卽チ帆船ヨリ汽船ヲ避クベク本條ノ例外ト見ルベシ

（二）追越船ノ場合

條項

第二十四條　總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラズ他船ノ航路ヲ避クベシ

總テ他船ノ兩舷正横後二點以外卽夜間ニアリテハ船燈ヲ見難

キ位置ヨリ其船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船トナサス故ニ其船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマデ他船ノ航路ヲ避クベキモノトス

其間他船ヲ追越サントスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト見做シテ他船ノ航路ヲ避クベシ

本項ノ場合追越船ヲ(甲)トシ被追越船ヲ(乙)トス

豫防法ノ命ズル處ニ據レバ(甲)ハ(乙)ノ航路ヲ避クベク全然避讓ヲ命ゼラルヽモノニシテ(乙)ノ汽船タルト帆船漁船タルトヲ問ハズ常ニ避讓ヲ命ゼラレ其避讓方法ハ操舵轉針ノミニ限ラズ第二十三條ニ命ゼラレタル「時宜ニ應ジテ速力ヲ緩メ若クハ運轉ヲ止メ又ハ後退スベシ」ナル條項ニ支配セラルヽモノナリ

即狹水路ニ於テ追越ノ場合(甲)ノ位置ニアルモノハ操舵ヨリモ速力ヲ減殺スル事勞少クシテ効多キモノナル事ハ海上經驗者ノ等シク一致スル處ナリ甲ハ絶對避讓ヲ命ゼラルヽヲ以テ追越サントスル際ハ針路ヲ轉ジ其信號ヲナシ又轉針ノミニテ衝突ヲ避ケ難キ場合ニ於テハ速力ヲ減ジ他船ノ航路ヲ避ケザルベカラズ

(乙)ハ第二十一條ニヨリ衝突ノ虞ナキニ至ル迄其針路及速力ヲ保タザルベカラズ尚夜間ハ本法第十條ニ遵ヒ船尾燈ヲ表示スルカ又ハ閃火ヲ發セザルベカラズ然レドモ航行船舶ガ無難ニ航過セシ既往ノ途ニ對シ注意ヲ嚴密ニシ看視セザルベカラザルノ理ナシ故ニ(甲)船ニ於テ音響信號ノ如キ注意信號ヲ發シタルカ

又ハ舷燈ノ射光範圍内ニ來リタル際ニ於テ始メテ針路及速力ヲ保守スル事ノ束縛ヲ受クベク而シテ特務トシテ(甲)船ニ對シ本船ノ存在卽チ危險ノ存在ヲ表示スルヲ要ス然レドモ晝間ニ於テハ船體自體ガ表象タリト雖夜間ニ於テハ然ラズ故ニ(甲)船ニ本船ヲ認識セシムル方法トシテ船尾燈ヲ定置點火スレバ後方看視ノ煩ヲ除キ危險表示注意喚氣ノ法ノ精神ニ妥合スベシ後方ヲ看視シ一々燈火ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スル如キハ今日汽船ニ於テ殆ンド見ル事ナク從ツテ其表示時機ニ關スル研究ハ之ヲ省ク

此追越船ノ塲合ハ兩船接近航行スルヲ以テ兩船共其操舵ニ就テハ充分ニ愼重ノ態度ヲ持スベシ

宜蘭丸山口丸衝突

下關海峽俎岩附近ニ於テ衝突シタル宜蘭丸山口丸衝突事件(裁決錄明治四十一年一九二頁)

新電信丸はるぴん丸接觸

山口丸ガ狹隘ノ水路ヲ航行スルニ當リ本船ノ右舷船首近距離ニ他船ヲ認メ居タルニ拘ラズ妄リニ速力ヲ增シ强キテ他船ノ航路線ヲ横切リ急速ニ普通航路ニ到ラントシタル職務上失當ノ運航ニ起因スト雖宜蘭丸ニ於テモ山口丸ガ我右舷船尾ニ追跡シ來ルヲ認知シタル時之ヲ避ケント欲シ一旦船首ヲ左轉シ乍ラ再ビ船首ヲ右轉シタルハ亦臨機ノ處置其當ヲ得ザリシ職務上過失ノ責ヲ免レズ云々

ト裁決セラレタリ

又江崎燈臺北方ニ於テ接觸シタル新電信丸はるぴん丸接觸事件(裁決錄大正五年一二三頁)

新電信丸ガ船尾燈ノ光力微弱トナリ居タルニ氣付カズシテ航行シタルト他船ノ追越シ來ルニ留意セズシテ漫リニ船首ヲ右

轉シタルトノ職務上ノ懈怠過失ニ基因シ云々

即チ新電信丸ハ第十條及第二十一條ニ違背シ接觸ヲ惹起セシメタルモノナリ

帆船及漁船ニ對スル汽船ノ追越事件ハ第十條違反其大部ヲ占ム

第十條　他船ニ追越サレントスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スベシ

此船尾燈ハ强制定置掲揚燈ニアラザルヲ以テ突然近距離ニ表示セラルヽ事アリ又掲揚定置スルモ其位置タルヤ其本船ノ注意充分屆カザル處ニアルヲ以テ新電信丸ノ如ク光力微弱トナリシニ氣付カザリシ例及ビ煙滅セルヲ知ラザリシ例多々アルヲ以テ大ニ注意ヲ要スルモノナリ

滋賀丸弘前丸衝突

（ホ）狹水路運航

條項　第二十五條　汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其中流ノ右側即本船ノ右側ニ當ル方ヲ航行スベシ

狹水路運航ニ關シ法ハ右側航行ヲ命ゼリ是レ絶對的命令トモ云フベク他船ノ來否ヲ問ハズ無難ニ航行シ得ル限リ右側航行ヲナスベク無難ニ航行シ能ハザル場合ハ臨機處置トシテノ運航ニ因ルベク狹水路ニ於テハ右側航行ハ絶對航法タルベシ

明治四十一年六月男木島東方ニ於テ衝突セシ滋賀丸弘前丸衝突事件ニ對シ地方審判所ハ

滋賀丸ガ本船ノ船首ニ方リ弘前丸ノ來航スルヲ認メ乍ラ男木島ニ接近シテ航行セントシ輕卒ニモ船首ヲ左轉シ該船ノ紅燈ヲ本船ノ右舷船首ニ認メタルニ拘ハラズ第十九條ノ規定ニ背

キ速カニ避讓ノ措置ヲ爲サズシテ其儘進航セシ不當運航ト弘前丸ガ滋賀丸ノ綠燈ヲ本船ノ左舷船首ニテ認メ兩船ノ航路正シク交叉シ居レルコトヲ確知シナガラ危險切迫スルニ至ル迄何等衝突ヲ避クルノ措置ニ出ズシテ漫然進航シタル懈怠トニ起因スト雖滋賀丸ガ斯カル水路ヲ航行スルニ當リ特ニ男木島ニ接近シタル航路ヲ採ラシメタルハ亦職務上過失ノ責ヲ免レザルモノトス

ナル裁決ヲ下セリ即本事件ヲ横切リ船トシテ審判シ滋賀丸ノ第十九條違反及弘前丸ノ機臨處置不備ヲ原因トシ最後ニ男木島ニ接近シタル航路ヲ採リタルヲ職務上過失トセリ即針路左側ニ偏シタルヲ第二十五條違反ト明示セズ衝突ノ餘儀ナキニ至リタル偏針路トナセリ

然ルニ高等審判所ニ於テハ（裁決錄明治四十一年四九七頁）滋賀丸ニ於テ僅カニ逆潮ヲ避ケン爲メ瀨戸ノ中流ヨリ左側ニ偏倚シテ航行スベキ針路ヲ採リタル不注意ト本船ノ稍右舷ニ方リ最初弘前丸ノ綠燈ヲ認メタルモ其後同船ノ檣燈及增掲燈トノ關係ニ依リ且ツ其紅燈又ハ兩舷燈ヲ右舷船首ニ見テ他船ガ我航路ニ接近シ來ルヲ認知シ得ルニ拘ラズ之ヲ避クルニ右轉セズシテ左轉シタル過失ト弘前丸ガ豫期ニ違ヒ他船ノ燈火ハ我航路ヲ離レズシテ遂ニ其綠燈ヲ左舷ニ認メ衝突ノ虞アルニモ係ラズ全速力ノ儘右轉シタル不注意トニ起因シト明ラカニ第二十五條違反ヲ主因トシ兩船ノ運航不當ヲ從因トセリ運航不當ヲ第十九條ニ適用セズ若シ滋賀丸ガ第十九條違反ナラバ弘前丸ハ其以前ニ於テ第二十一條違反ヲ構成スベキ場合

ナリシガ如シ

而シテ狹水路ノ定義即其幅員及長サ等ニ關シテハ何等法文ニ依ツテ明示セラレザルヲ以テ航海者ニ採リテ使用箇所ヲ示サズシテ使用方法ノミヲ强ユル本條ハ至極迷惑ノ感ヲ來スモノナリサレド狹隘ナル水路ニ於テ各船トモ其中流ノミヲ航行スルトセバ他船ト邂合スル事ハ常ニ航路眞向船ノ場合ノミヲ生ジ航路横切船ノ場合ヲ生ズル事ナシ故ニ第十八條ニ遵ヒ船首右轉スルトキニハ右側航行トナルベシ依ツテ地形上常ニ他船ト眞向ニ航行スル箇所ニテハ本條ヲ守リテ右側航行ヲナスベシト云フニアルベキヤ

次ニ本條ハ臨機處置以外ニ於テハ獨立條項ニシテ他ノ航法ニ支配セラルヽ事ナシ卽前掲ノ滋賀丸弘前丸衝突事件ニ於テモ高

久滿加多丸蘭貢丸衝突

等審判所ニ於テ横切船ノ場合トシテ取扱ハレズ本條違反及臨機處置不當トシテ裁決セラレタリ

久滿加多丸蘭貢丸衝突事件（裁決錄太正四年二三頁）

モ地方審判所ニ於テ第十九條及第二十一條違反ト裁決セシヲ高等審判所ニ於テ之ヲ否決シ

久滿加多丸ガ部崎燈臺沖ヨリ飛ケ州挂燈浮標ト中州西挂燈浮標トノ間ヲ航過セントスルニ當リ前路ニ於テ蘭貢丸ノ來航スルヲ認メタル塲合飛ケ州挂燈浮標ヲ大廻リシテ兩燈浮標間ヲ充分ニ開キタル後航路ノ右側ニ添フテ航行シ得ベキ餘裕アリタルニ拘ラズ海上衝突豫防法第二十五條ノ規定ヲ遵守セズシテ航路ノ左側ニ在ル飛ケ州挂燈浮標ニ極メテ接近スル航法ヲ採リタルト又汽笛短聲一發ヲ吹鳴シ居リタルニ拘ラズ同法第

ハイソン號コールデア號衝突

二十八條ノ規定ニ違背シ船首ヲ左轉シタルトニ起因シ云々ト裁決セリ

又男木島東方ニ於テ衝突セシハイソン號コールデア號衝突事件ハ地方審判所ニ於テ

コールデア號ガ水路ノ中流ヨリ左側ニ偏倚シテ航行シタルヲ過失トシ

高等審判所ニ於テハ

ハイソン號ガ狹水路ヲ航行スルニ當リ第二十五條ノ規定ニヨリ右側ニツクベキ航法ヲ採ラザリシヲ職務懈怠トシ

兩審判裁決ニ於テハ認定ヲ異ニスルモ何レモ第二十五條違反トシタルハ狹水路ニ對スル主趣相同ジ

由來狹水路ニ於ケル衝突事故ハ本條ヲ無視シ他船ヲ左舷ニ認ム

第二隅田丸第三貞喜丸衝突

ル船舶ハ曰謂權利船ナリト信ジ右側航行ヲ怠リタル事故及中流ヲ横過シテ他船ヲ追越サント企圖シタル事故多キガ如シ

狹水路ノ曲折ニ對シ曲折ニ添フテ右側航行スルトキニハ他船ノ行動ニ關シ危懼ノ念生ズル場合アリト雖輕々シク右側航行ヲ放棄スベカラズ曲路ニ於テ右側ニ添ハンガ爲以外ノ操舵ハ違法タルベシ

第二隅田丸第三貞喜丸衝突事件（裁決錄明治四十四年一二七頁）

第二隅田丸ガ殆ンド船首ニ一汽艇第三貞喜丸ノ紅燈ヲ發見シ該船ハ同川内ニ入航スルモノト認メタルヲ以テ互ニ左舷側ヲ替リ行カント欲シ汽笛短聲一發シタルニ他船モ亦之ニ應ジテ同一ノ汽笛信號ヲ發セシニ依リ其儘進行シ漸次鐵橋ニ近邇シタルトキ他船ハ本船ノ船首ヨリ少シク左方ニ於テ緑燈ヲモ顯

ハスニ到リタリ元來鐵橋下附近ノ川筋ハ少シク屈曲スルヲ以テ同橋下ヨリ入航シ來ル汽艇ハ地勢上一時左方ニ偏スベキニ依リ綠燈ヲ示スベキモ通過後ハ川筋ニ從ヒ再ビ船首ヲ復舊スベキ事ハ容易ニ想倒シ得ベキニ云々

ナル認定アリテ

狹隘ニシテ且ツ屈曲セル川筋ヲ航行スルニ當リ互ニ左舷側ヲ對シテ替ハリ行クベキ信號ヲ爲セルニモ拘ハラズ第二隅田丸ガ兩船相接近スルニ及ビ他船ノ動作ヲ誤斷シテ俄カニ無信號ニテ船首ヲ左轉シ且ツ衝突ノ危險ニ瀕スル迄機關ノ運轉ヲ停止セザリシ職務上ノ過失ニ起因スルモノニシテ云々

ト裁決アリ故ニ狹水路ニ於テ針路交叉スルモ横切リ船ノ場合ト見ルベカラズ

萬代丸うめが香丸接觸

狹水路ノ中流ヲ航過シテ自船ハ何等ノ事故ヲ發生セザリシモ他船ヲシテ第三船ト接觸衝突事故ヲ惹起セシメ譴責ヲ受ケタル例アリ

萬代丸うめが香丸接觸事件（裁決錄大正三年二四頁）

幸運丸ガ山底ノ鼻ヲ通過シ間モナク萬代丸ガ狙岩ノ蔭ヨリ出現シ來ルヲ認メ踵テ又同船ニ追尾シ來ルうめが香丸ガ汽笛短聲ヲ發シ踵テ萬代丸モ一短聲ヲ吹鳴シタルヲ聞キタリ然ルニ幸運丸船長ハ只管本船ノ喫水ニ徵シ右側ノ淺瀨ニ接近スルヲ虞レ稍躊躇シタル後船首ヲ右轉シタルモ航路信號ヲ行ハズシテ本船ノ行動ヲ速カニ他船ニ示サズ斯クテ雙方互ニ接近シ危險ヲ感ジタルニ依リ遂ニ汽笛二短聲ヲ吹キ激左轉シテ船首ヲ大里地方ニ向ケツヽ尙前進ヲ防止スル爲メ左舷錨ヲ放下シ云々

當時うめが香丸ハ萬代丸ヲ追越シ其船尾ト萬代丸ノ船首トノ距離約三十間位ナルトキ幸運丸ヲ避ケントテ周章其船首ヲ激右轉シタル爲萬代丸ノ船首ヲ横切ル狀態トナリ危機切迫セルヲ以テ直チニ舵柄激左轉ヲ命ジ同時ニ機關停止踵テ全速力後退ニ掛ケタルモうめが香丸船首ノ廻轉速力優勢ナリシ爲メ其効ヲ奏スル遑ナク衝突セリ

此事件ニ對スル裁決中幸運丸ニ對シテ

幸運丸船長ノ措置ハ本件ノ接觸原因ト認メ難キモ海上衝突豫防法第二十五條及第二十八條ヲ遵守セザリシ職務上義務違背ノ責ヲ免レザルモノニシテ其所爲ハ海員懲戒法第一條第六號ニ該當シ第二條第三號ヲ適用シ處分スベキモノトスト裁決處分セラレタリ

狹水路航法ニハ横切リ船ノ場合ヲ認メズト雖岐路アル場合及狹水路ニ出入スル際ハ横切船ノ場合生ズベシ是ハ當然第十九條ニ支配セラルベキモノナリ然レドモ碇泊地及出入港ノ如キハ幾分其趣ヲ異ニセルヲ以テ之ニ關シテハ項ヲ改メテ研究スベシ

狹水路ニ岐路アル場合ニ對シテハ第十九條ニ據リ他船ヲ左舷ニ見ル船ニ於テ避讓スベキ義務アリ

（ハ）出入港ノ場合

船舶ガ港口ヲ出入スル場合ニ於テ眞向又ハ幾ンド眞向、横切船及追越船ノ場合等種々アリト雖速力ニ對シ束縛ヲ與フル第二十一條ハ船舶運用術ノ妙技ト相背反スルヲ以テ港則ニ於テ之レガ協定ヲ認ムベシ

横濱港規程第十條神戸港規程第十一條長崎港規程第八條門司

港規程第十九條ニ於テ規定セル如ク何レモ汽船港界内ニ入ルトキハ速力ヲ減ズベシト云フニアリ而シテ港界ノ範圍ニ付テハ各港差違アリト雖横濱港ノ如キハ築港防波堤外半海里トセリ

朝日丸ウキリー號衝突事件（裁決錄明治四十年三四六頁）

朝日丸ウキリー號ガ當初朝日丸ヲ右舷ニ認ムルノ位置ニ在リタルヲ以テ第十九條ノ規定ニ遵ヒ他船ニ對シ其ノ航路ヲ避クベキ義務アルニ拘ラズ朝日丸ノ航路ヲ横切ラントシタル不當ノ運航ニ起因スト雖朝日丸ニ於テモ本船ガ既ニ港界線内ニ航入セルニ拘ラズ神戸港規定ニ反シ速力ヲ輕減セザリシ云々

即權利船タル朝日丸ニ對シテ速力ヲ保持セヨト云ハズ却テ保持セシ事即輕減セザリシ事ヲ譴責セリ又横濱防波堤外ニテ衝突セシ

辨天丸富貴丸衝突

辨天丸富貴丸衝突事件（裁決錄大正三年三一二頁）

汽船富貴丸ハ衝突ノ約五分時前ヨリ揚錨ノ準備ニ着手シタリシト雖右舷錨爪ノ地ヲ離レタルハ五時三十五分ナルヲ以テ其以前ニ於ケル碇泊狀態ニ在リ而シテ又辨天丸ハ當時尙五鏈許リノ距離ニ在リテ富貴丸ノ前面ヲ通過シタル後投錨ノ目的ヲ以テ漸次船首ヲ右轉シ微速力前進中ニシテ其際ニ於ケル辨天丸ノ速力ハ優ニ六海里餘ノ高速力アリシモ之レガ爲メ兩船ノ間ニハ何等危險關係ヲ生ゼズ又神奈川縣令第五十五號横濱港規定第十條ニ依レバ汽船港界内ニ入ルモ防波堤ノ入口ヲ通過シ又防波堤内ヲ運航スル場合ノ外ハ單ニ速力ヲ輕減スルヲ以テ異リ其程度ニ關シテハ特ニ制限ナキニ依リ此場合ニ於テハ富貴丸ハ勿論辨天丸ノ措置ニ關シテ敢テ非議スベキ缺點ヲ認

メザルモノトス然レドモ云々

トアリテ裁決ハ富貴丸ガ第十九條及第二十八條違反シタル事ヲ主因トシ辨天丸ハ第二十七條違反トシテ懲戒セシ地方審判裁決ニ對シ高等審判所ハ之ヲ否決シ（裁決錄同三一〇）

辨天丸ガ横濱港第四區ニ入航假泊セントスルニ當リ同所ニ假泊セル富貴丸ノ狀態ニ深ク注意スルコトナク且錨場ニ入ルニ不相應ノ高速力ヲ以テ徒ラニ同船ニ接近スルノ航法ヲ爲シタルト富貴丸ニ於テモ抜錨セントスルノ際既ニ辨天丸ガ右舷正横前ニ方リ接近シ來リ居ルニ拘ラズ其後同船ノ關係如何ニ深ク留意スルコトナク輕卒ニ前進右轉ヲナシタルトニ基因シ云々

ノ裁決アリ

サレバ錨地ニ近ヅキタルトキハ高速力ヲ持スルハ不當ナリト云フニ歸着スベク又抜錨船ガ錨爪地ヲ離レタルトキヨリ航行狀態トナリ其際右舷ニ見ル船ト衝突ノ虞アルトキハ之ヲ避讓スノ方法ヲ講ズベシト云フニアリ

次ニ入港船ト出港船トノ關係ニ就テ研究スルニ横濱港規程第六條ニ

前條ノ航路内ニ於テハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ航路ヲ避クベシ

トアリ是港ノ形狀ニヨリ特ニ定メタル規定ナリト雖又出港船ハ港内ノ困難ナル運航ニ沒頭シ出港シ來ルモノナレバ港外ノ狀況ヲ知悉スルノ餘裕少ナキニ反シ入港船ハ外界廣キ所ヨリ入港スルモノナレバ充分港内ノ狀況ヲ視察シ危險ヲ豫防スルノ餘裕ヲ

有スルモノナルヲ以テ出港船ニ對シテ避讓スル事可能ナリ故ニ河川ニ於テモ上リ船ハ下リ船ヲ避クベシ（大阪府水路取締規則第六條ノ三）ト規定セルモノアリ

惠比須丸白川丸衝突

惠比須丸白川丸衝突事件（裁決錄明治四十一年九二頁）

白川丸ガ棧橋ヲ解纜シテ將ニ出港セントスル船舶アルヲ認メ乍ラ深ク其動靜ヲ究メズシテ漫リニ自己ノ船舶ヲ該棧橋ニ繫留セントシタル職務上ノ過失ニ起因ス云々

龍田川丸大瀨戸丸衝突

又龍田川丸大瀨戸丸衝突事件（裁決錄明治四十一年七六二頁）

大瀨戸丸ガ本船ノ左舷船首ニ當リ他船ノ船尾燈ヲ表示シ汽笛三短聲ヲ吹鳴シテ後退シ來ルヲ認メ乍ラ之ヲ避クルノ措置甚緩慢ナリシ職務上ノ懈怠ニ起因シ云々

トノ裁決アリテ明カニ入港船ハ出港船ニ避讓スベキ事ヲ示セリ

以上研究スル處ニ據レバ

第一、錨地ニ近ヅキタルトキ速力ヲ輕減スルハ權利船ト雖不當運航ニアラズ

第二、入港船ハ出港船ニ避讓スベシ

群山丸サウス、グローブ丸衝突

ナル航法ハ審判裁決上當然ト見做ルベク衝突豫防運航ノ一法タル事ヲ認メ得ベシ

港內航行ノ速度ニ關シテ大阪地方裁判所ニ於テ與ヘタル判決例ニ

群山丸サウス、グローブ號衝突事件（裁決錄明治四十一年九月）

船舶ガ港內ヲ航行スルニハ彼我各船ノ安全ヲ保チ得ベキ程度ノ速力ヲ以テ航行スベキモノナルコトハ港則上明カニシテ其安全ヲ保チ得ベキ程度ノ速力ハ普通三四海里ニ止マルベキ一

般ノ慣習ナルモノトストアリ

（ト）霧中航行ノ場合

第十六條　霧中降雪其他暴風雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スベシ

汽船其正横ヨリ前面ニ當リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其所在ヲ定メ得ザルトキハ成ルベク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマデ其運行ニ注意スベシ

第十五條霧中信號參照

霧中其他展望充分ナラザル天候ニ於テ運航スル船舶ニ對シ豫防法ハ命ジテ「現時ノ狀況ニ注意シ適應ノ速力」ヲ保ツベキヲ命ゼリ卽展望ノ範圍ニヨリ速力ヲ減ジ危險ヲ認ムル時ハ直ニ危險ニ

近ヅカザル手段ヲ講ジ易カラシムル事ヲ命ゼルモノニシテ適度ノ速力トハ機關全速後退ニヨリ卽チ前進力ヲ縮少シ少クモ展望距離ノ半バナラシムルヲ意味スルモノナルベシ

而シテ霧中信號長聲一發ヲ「二分時ヨリ多カラザル間隙ニ」ナスベシ

二分時ナル間隙ハ速力十二浬ノ船ニシテ四鏈九浬ニシテ三鏈六浬ニシテ二鏈ノ行程ナリ故ニ適度ノ速力ノ交渉モ此二分時間ニ經過スル行程ヲ思慮ニ容レ決セザルベカラズ第一聲ヲ發シテ後第二聲ヲ發スル迄ハ自船ノ進行ヲ他船ニ知ラシムル手段ナキヲ以テ其行程間ノ危險ニ對シ豫防ヲ講ジ置カザルベカラズ

又條文ニ於テ二分時ヨリ多カラザル間隙ナルヲ以テ二分時以內ノ短少時間ナランニハ差支ナキ如シト雖モ若シ數秒ノ間隙ニ

テ連吹シタランニハ自船ヲ他船ニ知ラシムルニ好都合ナルベケレド他船ノ霧中信號ヲ聽取スル機ヲ少ナカラシムルモノナリ

サレバ二分時ヨリ多カラザル間隙ナル詞ハ展望ト速力トヲ推算シテ之ヲ吹鳴スルヲ適當ナリトス而シテ他船ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ直チニ之レニ應答スベシ是展望シ得ザル範圍ニ於テハ信號ノ方向ニヨリ他船ノ進航方向ヲ推定スルモノナルヲ以テ單ニ一聲ノミニテハ推定スルコト不能ナルガ故ニ他船ノ存在ヲ認メタル危險ノ通知應答及本船ノ進航方向ヲ知得セシムル手段トシテ直チニ應答吹鳴ヲ爲スベシ

次ニ他船ノ霧中信號ヲ聞キタル際其所在ヲ定ムルニハ目ニテ認識スル外ナシ耳ニテ聽識スルハ其方向ヲ推斷スルニ止マリ所在ヲ確カニ定ムルト云フヲ得ズ故ニ正横前ニ他船ノ霧中信號ヲ聞キタル際ハ直チニ機關ヲ停止シ長聲一發ノ霧中信號ヲ返信シ他船ノ動靜ニ注意シ本船速力ヲ有セザルニ至リタルトキハ長聲二發ノ停止信號ヲナスベシ而シテ他船ノ信號ニ注意ヲ拂ヒ他船ノ動靜ヲ窺ヒ危險アルヲ認メタル時ハ直チニ臨機適當ノ處置ヲ採ルベシ

他船ヲ目認セザル限リ航路信號ヲナスベカラズ是ハ他船ニ於テモ亦本船ノ位置ヲ定ムル事困難ナルベク位置不確實ノ船ノ航路信號ハ何等ノ價値ナキモノニシテ反ツテ推斷ノ誤謬ガ危險ヲ誘致スル事アルヲ以テナリ

西貢丸筑後川丸衝突事件（裁決錄大正四年四三頁）

西貢丸筑後川丸衝突

筑後川丸ガ他船ノ霧中信號ヲ聞キタル際其所在ヲ確認シ得ザリシニ拘ハラズ漫然船首ヲ右轉シタルト云々

擇捉丸有明丸衝突

天成丸御代丸衝突

擇捉丸有明丸衝突事件（裁決錄大正三年一三九頁）

兩船互ニ霧中信號ヲ聽キタルトキ其所在不明ナルニ拘ラズ有明丸ニ於テ機關運轉ヲ停止セザルノミナラズ輕卒ニモ船首ヲ右轉シタル過失ニ起因シ其所爲ハ海上衝突豫防法第十六條第二項ノ規定ニ違背シ云々

天成丸御代丸衝突事件

兩船ガ他船ノ霧中信號ヲ其前面近距離ニ聞キ其所在不明ナルニ拘ラズ孰レモ速力ヲ輕減セズ漫然轉針シタルニ基因シ云々トアリテ何レモ他船ヲ目認セザル內ニ航路信號ヲ以テ轉針シ衝突ヲ惹起シ懲戒セラレタリ上述ノ裁決中後二者共速力ヲ減退セザル點衝突ノ一因ヲナセル如ク霧中衝突ハ速力適度ニ緩和セザル點ニ於テ懲戒セラレタル例最多シ

而シテ航行頻繁ナラザル大海ニ於テハ勿論航行頻繁ナル近海ニ於テモ霧中航行ニ速力ヲ減ゼザル船舶多シ是レハ決シテ豫防法ヲ蔑視スル意志ニ非ズシテ寧ロ風潮ニ流下セラレ自船ノ位置不確實ナラシムル危險ヲ避クル爲ノ意志ヨリ出發セシモノト解セラル即チ遲速力ノ時ハ風壓差潮壓差ノ爲ニ往々船舶ノ位置不確正トナリ反ツテ思ハザル座礁擱座ヲ來ス事ヲ恐ルヽガ故ナリ豫防法ハ對船舶ノ危險ヲ豫防ノ爲造ラレタルモノニシテ船舶自身ニ於テハ對船舶ノ危險ノ外岩礁陸岸等ニ對スル危險ニ顧慮セザルベカラザルヲ以テ速力ノ保全ニ出ヅルナリ

而シテ豫防法中衝突豫防ノ爲速力ノ制限ヲ命ズルモ皆少時間ニ止マルト雖霧中ノ場合ニテハ霧中ノ期間長ケレバ從ツテ速力ノ制限モ長キガ故ニ船舶ニ採リテ是苦痛事ナリトス爲ニ違法ヲ

敢テスルニ至ルモノアリ

故ニ霧中ニ對スル近海航路ニ於テ怜悧ナル方法ハ濃霧中航行セザルニアリ即濃霧至ルトキハ假泊所ヲ近キニ求ムルニアリ

霧中ト雖航行セザルベカラザル狀態ニ在ルトキハ危險ニ面シテ航行スル所以ニシテ危險ニ對スル準備ヲナスベシ而シテ他船ノ信號ヲ聞キタルトキハ直チニ其信號ノ方向ニ船首ヲ向ケ機關後退ヲ以テ速力ヲ減殺スルノ途アルノミ而シテ他船ノ信號ノ聞ヘシ方向ニ即他船ニ船首ヲ向クル事ハ船腹ヲ他船ニ曝露スル事ニ比シ衝突ノ部合ヲ約八分ノ一内外ナラシムルニアリ又萬一衝突ヲ來スモ其損害ヲ輕減セシムル點ニ於テ採ルベキ好手段ナリト信ズ

第四章　臨機處置

臺南丸壽丸衝突

海上衝突豫防法中臨機處置ニ關スル條項二項アリ即チ

第二十一條第二項　但シ他船ニ於テ天氣密濛又ハ其他ノ事故ニヨリ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハザル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ亦臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲナスベシ

即チ權利船ニ對シ其針路及速力ヲ保持スルトキニハ衝突ヲ避ケ能ハザル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキニハ臨機ノ處置ヲ採ルベキ事ヲ命ゼリ

臺南丸壽丸衝突事件（裁決錄明治四十一年二二〇頁）

兩船互ニ其航路ヲ横切リ衝突ノ虞アル場合ナルニ拘ラズ壽丸ガ第十九條ニ背キ他船ニ對シ避讓ノ措置ヲ採ラザリシ職務上ノ懈怠ニ起因スト雖臺南丸ニ於テモ他船ガ漸次本船ノ航路線

ニ近付キ來ルニモ拘ハラズ危險切迫ニ至ル迄依然進航ヲ繼續シタルハ亦職務上懈怠ノ責ヲ免レズトノ裁決アリ

小浦丸ビユーロー丸接觸

小浦丸ビユーロー號接觸事件（裁決錄大正三年一一六頁）

汽船ビユーロー號ハ來島海峽ノ中水道ヲ通過セントスルニ當リ其右舷船首ニ小浦丸ノ船尾燈光ノミヲ認メ同船ヲ追越サントスル位置ニ在リシヲ以テ海上衝突豫防法第二十四條ノ規程ニ依リ他船ノ航路ヲ避クベキ義務ヲ有シ且水道ハ極メテ狹隘ニシテ兩船並航シテ通航スルノ充分ナラザルニ拘ハラズ船首ヲ右轉シテ強ヒテ他船ノ左側ヲ通過セントシ操縱意ノ如クナラズ遂ニ兩船ノ接觸ヲ惹起シタルモノニシテ卽チビユーロー號乘組員ノ措置ハ前記ノ法條ニ違背シ本件接觸ヲ構成シタルモノトス又小浦丸ハ中水道ニ莅ミタル際汽船ビユーロー號ガ左舷船尾ヨリ同船ヲ追越サントスルニ遭遇シタルモノニシテ同法第二十一條ノ規定ニヨリ其針路及速力ヲ保守スベキ義務ヲ有セルヲ以テ同一ノ速力ヲ保チテ進航シタルモビユーロー號ハ同法第二十四條ノ義務ヲ履行セズ前記ノ如ク船首ヲ右轉シテ強ヒテ其左舷ヲ通過セントセルヲ以テ萬一ノ危險ヲ慮リ本船ニ於テモ船首ヲ右轉シテ中流ヨリ少シク右方ニ寄リタルモノニシテ該措置タルヤ他船ニ關シテハ其運航上ニ何等ノ支障ヲ與ヘザルノミナラズ却テ幾分ノ餘地ヲ供シタルニ外ナラザルニ依リ之ヲ以テ直チニ同法第二十一條ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ズ

トアリテ臨機處置ノ機宜ニ適シタリトセリ

而シテ臨機處置ニ關スル他ノ一項ハ

第二十七條　本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若シ危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハザル特殊ノ場合ニ於テハ其危險ヲ避クル爲メ臨機ノ處置ヲナスコトニ注意スベシ

臨機處置ヲ採ルベキ時機

ニシテ突發シタル危險及他船ノ不當運航ニ對シ一般ノ船舶ニ其危險ヲ避クル爲ニ臨機處置ヲ採ルベキ事ヲ命ジタリ

而シテ危險切迫シタル時ニ臨機處置ヲ採ルベキ事ヲ要求スト雖其危險切迫ノ程度即チ臨機ノ處置ヲ採ルベキ時機ニ就テハ法文ニ於テ何等具體的說明ヲ見ズ此點ニ就テ研究スルニ東京控訴院ノ下シタル

膽振丸シドニー號衝突事件ニ關スル判決文中

普通商船ガ前進中突然船首ニ危險ヲ發見シ爲メニ全速力後退ヲ行ヒ全ク前進ノ隋力ヲ消滅シ得ルニ至ル迄其隋力ノミニシテ前進スルノ距離ハ自船ノ長サノ約四倍乃至五倍トス而シテ又同一ノ場合ニ全速力後退ノ代リニ舵柄ヲ一方ニ偏シ急速自轉ヲ行フニ當リ船首ガ原針路ニ對シ約九十度ノ角ヲ爲シ前進ヲ全然皆無ナラシムルニ至ル迄ニ原進路ト同一ノ方向ニ進行スル距離モ亦自船ノ長サノ約四倍乃至五倍トス

故ニ一航海ノ安全ヲ保タンニハ自船ノ長サノ五倍以內ニ危險ノ接近シタルトキ臨機ノ處置ヲ採ルベキモノナルコトヲ認メ得ベク膽振丸ノ長サ三百十四尺四寸ナルコトハ爭ヒナキ所ナルヲ以テ此約五倍ハ約二鏈五七トナリ而シテ兩船ノ航路ガ相交叉スベキ點ハ既ニ認定シタル如ク膽振丸ガ一時二十七分後

二十分前ノ頃其定針點ヨリ約八鏈九ノ所ナルヲ以テ膽振丸ガ六鏈三餘ヲ航進シタル以後ヲ同船ガ臨機ノ處置ヲ爲スベキ時期ナリトス

即チ兩船ノ航路交叉點(クロツシングポイント)ヲ距ル自船ノ長ノ五倍ノ位置ニ進行シタル時ニ尙危險アルトキハ臨機ノ處置ヲ採ルベシト云フニアリ

此事件ハ明治四十二年審判裁決錄五七頁ニアリテ其裁決ハ

膽振丸シドニー號衝突

シドニー號ガ膽振丸ト帆船トノ間隙充分ナラザルニモ拘ラズ帆船ノ船首ヲ通過シタル後ニ膽振丸ヲ避ケントシタル爲メ惹起セラレタルモノニシテ膽振丸ノ措置ニ關シテハ咎ムベキ廉ナシ

トアリタルモ種々鑑定人ノ意見ヲ徵シ東京控訴院ニ於テ之ヲ要スルニシドニー號船長ハ適當時ヲ以テ右轉ヲナサズ帆船愛邦丸ノ船首ヲ通過セント試ミタルヨリ膽振丸船長ヲシテ自己ノ船首ヲモ通過スルモノト誤認セシメ膽振丸船長ハシドニー號ガ海上衝突豫防法第二十二條ヲ無視シ自己ノ船首ヲ横切ルモノト信ジ其妄動ヲ驚ク餘リ其危險ノ未ダ切迫セザルニ先立チ機關ヲ停止シ速力ヲ減ジ以テシドニー號ニ自船ノ船首ヲ通過スルノ餘地ヲ與ヘント試ミ而シテ膽振丸ニシテ斯ル行動ヲ取ルニ於テハ右轉スルコトノ極メテ危險ニシテ左轉スルコトノ寧ロ安全ナルニ拘ハラズシドニー號船長ハ深ク此情態ニ注意セズ右轉ヲ爲シタルヨリ遂ニ兩船ノ衝突ヲ惹起シタルモノニシテ兩船長ハ共ニ其責ニ任ゼザルヲ得ズ然レドモシドニー號船長ノ過失ハ衝突ノ虞レナカルベシト輕信スルノ餘リ適當ナル時機ニ他船ノ航路ヲ避クル事ヲナサズ且ツ深ク他船

ノ行動ト危險ニ注意セザリシモノニシテ膽振丸船長ハ他船ノ安動ニ驚キタルモノナルヲ以テシドニー號船長ノ過失ハ重ク膽振丸船長ノ過失ハ輕カリシモノト云フベク其頃合ハ七ト三トノ如クナリトスルヲ相當トス

トノ判決アリテ膽振丸船長ノ施シタル臨機處置ハ時機尙早ナリシト云フニアリ

卽チ臨機ノ處置ヲ採ルベキ時機ハ

兩船相接近シ衝突ノ虞レアルトキ其儘運航スレバ兩船ガ當然衝突スベキ處ヨリ自船ノ長サノ約五倍ノ距離ニ臻リタルトキ（恰モ其時全速力後退ヲナストキハ自船ガ其處ニ臻リ停止スルモノナリ）臨機ノ處置ヲナスベシ

ト云フニアリサレド航路交叉點（クロッシングポイント）ナルモノハ視界ニ表象ナキヲ以テ其點ヨリノ距離推定ハ困難ニシテ寧ロ明カナル表象ヲ基礎トシテ推定ヲナスノ途ヲ擇ブトキハ其推定ニ大差ナキヲ得ベケレバ航路交叉點ヨリノ距離ノ代リニ兩船間ノ距離ヲ以テスルヲ便宜ナリト信ズサレバ

兩船相接近シテ衝突ノ虞レアルトキ其儘運航スルニ於テハ衝突スベキ場合兩船間ノ距離兩船ノ長ノ和ノ五倍ニ達シタルトキ臨機ノ處置ヲ採ルベキ時機トス

ナル結論ニ歸着スベシ

高砂丸關東丸衝突事件裁決文中臨機ノ處置ニ關スル記事アリ（裁決錄大正三年六九頁）

接觸前八分時ニ關東丸ノ燈火ガ白紅ノミトナリシ以後ハ同船ノ前後白燈火ノ角度ニ依リ右轉中ナルコトヲ容易ニ推斷シ得

高砂丸關東丸衝突

ベキニ高砂丸船長ハ接觸前四分時ニ至ル迄依然危險ナキモノト誤信シ何等衝突豫防ノ手段ヲ講ゼズ其儘進航シ兩船ノ距離極メテ切迫スルニ及ビ始メテ船首ヲ左轉シ踵テ全速力後退ヲナシ以テ關東丸ヲ避ケントシタルハ臨機ノ措置其時機ヲ得ザリシモノニシテ是亦海上衝突豫防法第二十七條違背ノ責ヲ免レザルモノトス云々

即チ臨機ノ措置ヲ接觸前四分時頃ニ於テナサヾリシハ其時機ヲ逸セルモノトセリ而シテ其四分時ナル時機ニ於ケル距離ハ認定ニ於テ三四鏈トアリテ明瞭ナル數字ニ現ハレザルモ兩船共其速力ハ八海里强ナリシヲ以テ一分時ニ一鏈四位ノ速力ナリ而シテ後退時間ハ高砂丸ハ二分間關東丸ハ一分間ニシテ操舵時間ハ前者二分間舵柄右舷後者四分間舵柄左舷ナリ此間兩船ノ航行距離ハ前者ハ約四鏈强後者ハ約三鏈半位ナルベク接觸前兩船航路ノ交叉角ハ約五點ナリシヲ以テ兩船間ノ距離ハ約五鏈トナルベシ而シテ兩船ノ長サノ和ハ約百間强ナリ即チ此接觸前四分時ニ於ケル兩船間ノ距離ハ兩船ノ長サノ和ノ約五倍ナリ

臨機ノ處置ノ時機ニ就テハ上述セリ次ニ臨機ノ處置ヲ採ルベキ場合ニ就テ研究スベシ

一、他船ノ違法運航ニ對スル場合

二、兩船間ニ第三船アル場合

三、突然生ジタル衝突ノ危險ニ對スル場合不安ナル航路及他船行動不明等

（一）ノ場合（他船ノ違法運航）

眞向ノ場合

音羽丸淡水號衝突

和款浦丸帆船衝突

音羽丸淡水號衝突事件（裁決錄明治四十年六九頁）

淡水號ガ音羽丸ト幾ント眞向キ行逢ヒタルトキ第十八條ノ規定ニ反シ針路ヲ左轉シタルニ基因スレドモ音羽丸ニ於テモ淡水號ガ規定ニ反シ左轉シ來リタルコトヲ認メタル際直チニ音羽丸ノ速力ヲ緩メ若クバ停止シテ危險ヲ避ク可キ臨機必要ノ措置ヲ施サヾリシハ亦衝突ノ一因ナリ

トアリ横切リ船ノ場合權利船ガ第二十一條ニ違背シタルトキ臨機處置ノ時機ヲ逸シタル例ハ前掲ノ高砂丸關東丸衝突事件ノ如キ又帆船避航ノ場合ニ於テ帆船ガ逆轉ヲ行ヒタル場合ニ臨機處置ヲ採ラザリシ爲懲戒セラレタル

和歌浦丸帆船衝突事件（裁決錄明治四十年三三六頁）

和歌浦丸ガ他船ノ示セル燈火ガ紅燈ヨリ綠燈ニ替ハリ而モ其

第二盛運丸帆船衝突

大智丸和歌浦丸衝突

方位變更セザルニ拘ハラズ相當ノ時機ニ於テ之ヲ避クル處置ヲ採ラザリシモ亦懈怠ノ責ヲ免レズ

第二盛運丸帆船衝突事件（裁決錄明治四十年三六一頁）

第二十七條ノ規定ニ遵ヒ愼重事ヲ處スベキニ帆船燈火ノ變轉ニ應ジテ輕々シク船首ヲ變轉シタルハ注意周到ナラザルモノニシテ云々

追越船ノ場合

大智丸和歌丸衝突事件（裁決錄明治四十年二八二頁）

大智丸ガ和歌丸ヲ追越サントスルニ當リ同船ガ潮流ノ爲メ後方ニ壓流セラルヽヲ認ムルニモ拘ハラズ大智丸ニ於テ本船々首ヲ右轉シ强ヒテ和歌丸ト相模丸トノ狹隘ナル間ヲ通過セントシタル不當ノ運航ニ起因シ和歌丸ガ潮壓ノ爲メ和歌丸ノ後

方ニ壓流セラルヽ際大智丸ガ右舷後方ヨリ本船ニ接近シ來ルヲ認メ其儘現狀ヲ維持スルトキハ同側ニ衝突セラルヽノ虞アルヲ以テ之ヲ避クル爲メ全速力後退ヲ令シタルハ臨機ノ處置其當ヲ得タルモノトス

國見丸勝浦丸衝突

ノ如キ裁決アリ又狹水路航行ニ關シ

國見丸勝浦川丸衝突事件（裁決錄明治四十四年一四七頁）

國見丸ガ大阪築港ニ入航スルニ當リ水路取締規則第二十三條第一項ニ規定スル航路ニ由ラズ關門ニ接近シ該航路ヲ横切リテ之ニ入ラントシ此場合ニ於テ同則第六條第一項第四號ニヨリ勝浦川丸ノ航路ヲ避クベキ措置ヲ怠リタルニ起因シ云々

ニ對シ勝浦川丸ハ關門航路ノ稍右側ニ在リ右舷船首ニ方リ北突堤端沖ニ認メタル國見丸ノ左轉信號ヲ聞キタル場合ニ於テ本船モ亦左轉信號ヲ爲シ船首ヲ左轉シ踵テ全速力後退ヲ爲シタルハ臨機相當ノ處置ニシテ云々

濟州丸田浦丸衝突

他船ノ違法運航タリト雖相當ノ時機ニ於テ之ヲ認識シタルトキハ之レニ順應スルノ航法ヲ採ルヲ以テ機宜ニ適シタル臨機處置ト云フベシ

（二）ノ場合（第三船介在）

三船相近寄リテ衝突ノ危險アル場合ハ種々ノ狀態ヲ呈シ複雜ニシテ各船ガ衝突豫防法ノ航方ノミニ據リテハ安全ニ航行シ難キ場合ヲ生ズベシ

濟州丸田浦丸衝突事件（裁決錄明治四十五年一〇一頁）

兩船互ニ海上衝突豫防法第二十五條ノ規定ニ遵ヒ中流ノ右側

ヲ徐航シ居タルモ偶々帆走船ガ田浦丸ノ航路ヲ妨碍シタル
起因シ田浦丸ガ該帆船トノ衝突ヲ免レントシテ我船首ヲ左轉
シタル爲メ濟州丸ニ接近シタルヲ以テ直チニ相當臨機ノ處置
ヲ施シタルモ之レガ効果ヲ奏スル遑ナク遂ニ本件ヲ惹起スル
ニ至リタルモノニシテ事情已ムヲ得ザルモノト認ム
ト裁決ヲ與ヘラレタル事件アリ
田浦丸ハ濟州丸ガ下航シ來レルヲ認メタルモ右舷側ニハ多數ノ
航走船居リタル爲メ航路ノ中央ヨリ僅カニ右側ニ寄リ進航シ同
時六分頃右舷船首ニ方リ偶々一帆船ノ我船首ヲ左方ヘ横切ラン
トセル狀態ニアリタルヲ以テ機關ノ運轉ヲ停止セリ然ルニ該帆
船ハ同時七分頃本船ノ左舷船首ニ到リ俄カニ逆轉ヲ行ヒ再ビ我
船首ヲ右方ニ横切ラントセルニ依リ倉皇我船首ヲ左轉シ辛フジ

テ之ヲ避クルヤ直チニ舵柄左轉ヲ令シタル際既ニ濟州丸ト接近
シタルヲ以テ舵柄左舷一杯ヲ令シタルモ倍々危險切迫シタルニ
依リ同時八分頃汽笛短聲ヲ三發シテ全速力後退ヲ令スルト同時
ニ兩船錨ヲ投下シタリ一方濟州丸ハ澪筋ヲ汕リツヽ次第ニ船首
ヲ右轉シ同時四分頃既ニ該船ハ本船ノ前面ニ在リテ内港ヘ向ケ
進航セルニ依リ機關ノ運轉ヲ停止シ尙ホ船首ヲ少シ宛右轉シ該
船ヲ我左舷船首ニ認ムルニ至レリ然ルニ同七分過ギ本港内ニ碇
置セル第六號繫船浮標ノ附近ニ達シタルトキ該船ハ突然船首ヲ
左轉シ來リ危險ニ瀕シタルモ該浮標ト第五號浮標トノ間ニ繫留
船艀等アリテ右轉スベキ餘地ナキヲ以テ同時八分頃汽笛短聲ヲ
三發シテ機關ノ運轉ヲ微速力後退踵テ全速力後退ニ爲スト同時
ニ兩舷錨ヲ投下セリ

日航丸琉球丸衝突

兩船トモ如上ノ如ク爲スベキ總テヲナシタルヲ以テ不可抗力トシテ兩船トモ前記ノ如ク不可懲戒ノ裁決ヲ受ケタリ

日航丸琉球丸衝突事件（裁決錄大正二年一九二頁）

琉球丸ガ日航丸ト彦島トノ間即チ水道ノ右側ニハ帆船群走シ居リ航行スル事ヲ得ザリシヲ以テ日航丸ト天草丸トノ中間ヲ航過セント爲シタルニ天草丸ニ接近スルニ及ビ同船ニ異狀ヲ生ジ是ニ於テ本船ガ前進スルノ危險ヲ感ジ機關運轉ヲ全速力後退ニ爲シタルニ暗車ノ作用ト前進ノ惰力トニ依リ本船ハ日航丸ノ前路ニ横ハリ遂ニ衝突ヲ惹起スルノ已ムヲ得ザルニ至リタルモノ云々

天草丸異狀ヲ生ジタル事ハ帆船ト衝突セシ爲メ航路ヲ横過スル事トナリタルヲ以テ琉球丸ハ臨機處置ヲ採リタルモ遂ニ日航丸ト衝突スルニ至リタルモノナレド不可抗力ノ衝突ニシテ其臨機處置ハ適宜ナリトノ裁決前記ノ如シ

前掲ノ膽振丸シドニー號衝突事件及（本章七〇頁）狹水路運航ノ項中ノ萬代丸梅か香丸衝突事件（四九頁）參照

（三）ノ場合（突發危險）

勝丸宮島丸衝突事件（裁決錄明治四十一年七六〇頁）

宮島丸ガ他船ノ紅燈ヲ本船ノ殆ンド正船首ニ認メ船首ヲ少シク右轉シタル間モナク其紅燈ハ隱滅シテ綠燈トナリタルモ他船ハ再ビ紅燈ヲ現ハスナラント期待シ毫モ本船兩色燈ノ燈火ガ消滅シ居タルニ氣附カズシテ何等汽笛信號モナサズシテ漫然全速力ノ儘他船ノ綠燈ヲ本船左舷船首ニ保チツヽ漸次船首ヲ右轉シタル職務上ノ懈怠ニ起因スト雖勝丸ニ於テモ當初他

第四福山丸幸運輸丸衝突

船ノ白燈ヲ發見シタル以來同燈火ハ本船ノ左方ニ變移セルヲ認メ居タルニ係ハラズ兩船相接近スルニ及ビ始メテ船燈ヲ表示セザル汽船ナル事ヲ確知シタル場合全速力ノ儘强テ其前路ヲ航過セント欲シ一旦本船ノ船首ヲ左轉シタルハ臨機ノ處置當ヲ得ザルニ依リ亦職務上過失ノ責ヲ免レザルモノトス云々

第四福山丸幸運輸丸衝突事件（裁決錄大正二年一九九頁）

幸運輸丸ハ右舷船首約一點半ニ方リ近距離ニ於テ保戸島ノ內側ヨリ其北西端ヲ替ハリ現出セル第四福山丸ノ船體ヲ認メ踵テ其檣燈ヲ發見シ該船ハ我船首ヲ右舷ヨリ左舷ニ横切ラントスル狀態ニ在ルヲ以テ汽笛一聲ヲ發シ舵柄左舷一杯ヲ令シ踵イテ機關運轉ヲ全速力後退ニナシタルモ遂ニ衝突シタル事件ハ第四福山丸ガ海上衝突豫防法第二條第三項ニ規定シタル左舷燈ヲ表示セズシテ航行シタルニ起因シ云々

幸運輸丸ニ於テハ兩船ノ狀態ヲ認知スルヤ相當ノ措置ヲ施シタルモノ云々

ナル裁決アリ

神威丸江孚號接觸

神威丸江孚號接觸事件（裁決錄大正三年二五八頁）

神威丸ハ上海港ニ到着シ招商局揚家渡碼頭ノ附近ニ達シタル際本船ノ前路約三鏈强ノ所ニ於テ汽船久保丸ガ艀船ニ接觸シ航路筋ニ横ハルヲ認メタルニ俄カニ黑球二個ヲ揭揚シ運轉自由ヲ得ザルノ信號ヲ爲シタルヲ以テ此儘進行スルヲ危險ナリト思惟シ機關ヲ停止シテ惰力前進トナシタルモ流壓ノ爲メ猶豫期以上ノ進航力ヲ有シタルヨリ全速力後退ヲ令シ揚家渡碼頭ニ繫留中ノ汽船江孚號ヨリ約一鏈餘ノ下流ニ碇泊セシ支那軍艦ノ右舷船

尾ニ近カク雙錨ヲ投ズルト共ニ再ビ全速力後退ヲナシ錨鎖全部ヲ伸出シテ漸ク之ヲ阻止シ得タルモ錨鎖ノ緊張スルト同時ニ船尾ハ左方ニ壓流セラレ次第ニ江孚號ノ船尾ニ接近スルノ狀態ニナリタルヲ以テ兩船ノ距離約二十呎トナリタルトキ同船ニ對シテ其繫索ヲ伸サン事ヲ要求スルト共ニ舵柄ヲ左舷一杯ニ偏シ全速力前進トナシテ同船ヲ替サントシタルモ流勢急激ナリシ爲メ舵効意ノ如クナラズ竟ニ本船左舷船尾ハ同船ノ右舷船尾ニ凭觸シタリ

本件ノ如キハ他船ガ俄カニ黑球二個ヲ揭揚シタル爲メ運航前進ヲ見合セタル爲メ錨泊ニ付テ種々努力セシモ第三船ニ接觸セシ事件ニシテ之ニ對スル裁決ハ

相當急激ナル順潮ニ乘ジ船舶輻輳ノ狹隘ナル水路ニ向ケ漫然

近江丸立神丸衝突

進航シタル職務上ノ懈怠ニ基因ス

トアリテ突發危險ニ對シテハ臨機相當ノ措置ヲ採リタルモ其地勢及流潮ニ對シ注意充分ナラザル點ヲ懲戒セラレタリ是ト殆ンド同義ノ事件アリ突發危險ニアラザレドモ航行不安ナル狀態ヲ發見シタルトキ强テ進航スルハ第二十七條違反ナリト云フニアリ卽チ

近江丸立神丸衝突事件（裁決錄大正五年三一七頁）

近江丸ガ漲潮ノ初期ニ當リ殊ニ狹隘ニシテ船舶運用最至難ナル來島海峽ヲ西口ヨリ通過セントセシ際恰モ中西兩水道ヨリ進行ノ二汽船同時ニ接近シ來リ三船交々衝突ノ虞アルニモ拘ラズ海上衝突豫防法第二十七條ノ趣旨ニ違反シ强テ之ヲ通過セント企テタル職務上ノ過失ニ基因シ云々

要スルニ不安ナル狀態ニ顧慮セズ航行スルハ第二十七條ノ百般ノ危險ニ注意スル事ニ違背スルモノナリ

裁決錄中屢々

他船ノ行動ヲ怪シミタル場合ニ於テ本船ノ速力ヲ減殺スル事ヲナサズ云々

ナル字句ニ遭遇ス

凡ソ危險ニ面シタルトキ最安全ナルハ自船ガ停止狀態ニアリテ其危險ニ對シ直チニ順應策ヲ講ズル事ナルヲ以テ突發危險ニ對シ又不安航路狀況ニ對シ尙他船ノ行動不明ノ際ニ於テモ第一ニ本船ノ停止狀態ヲ採ル事臨機妥當ノ處置ナリト云フニ歸着スベシ

第五章　豫防法信號用必要器具

豫防法信號用必要器具ヲ大別シテ

一、燈火信號器具
二、形象信號器具
三、音響信號器具

トナス

(一)燈火信號器具

所謂船燈ノ事ニシテ其種類大略左ノ如シ

品名	性質及射光圈	光達距離	掲揚位置
檣燈	白色ニシテ正船首ヨリ左右兩舷各十點間ヲ照スモノ	五海里以上	本船ノ前方ニアリテ高サ二十尺ヨリ四十尺ノ間
右舷燈	綠色ニシテ正船首ヨリ右舷十點間ヲ照スモノ	二海里以上	右舷側

左舷燈	紅色ニシテ正船首ヨリ左舷十點間ヲ照スモノ	二海里以上	左舷側	
曳船燈	檣燈ニ同ジ	五海里以上	檣燈ノ上下六呎以上ノ位置	
信號用紅燈	紅色ニシテ四圍ヲ照スモノ	二海里以上	檣燈ノ位置及其上下六呎以上ノ位置	
同白燈	白色ニシテ四圍ヲ照スモノ	二海里以上		
碇泊燈	白色ニシテ四圍ヲ照スモノ	一海里以上	船體上二十呎以上四十呎以下	

等其重ナルモノニシテ尚四十噸未滿ノ汽船及二十噸未滿ノ帆船其他漁舟ニ對シテハ第七條及第九條ニ於テ詳細ノ規定アレド本章ニ於テ省略ス

夜間ニ於ケル船舶ノ表象ハ一ニ燈火ニ據ルヲ以テ其狀態如何ヲ鮮明ニ表示スルヲ要ス即航行船碇舶船及特殊狀態船ナル事ヲ他船ニ示シ又一方其表示ニ對シ適當ノ運航ヲナスベキモノナリ

航行中ノ船舶標識燈火

汽船　檣燈及兩舷燈（第二條）

但シ强制燈ニ非ラザルモ增揭燈揭揚スルモノ多シ

曳船　檣燈ノ外同種ノ白燈一個及兩舷燈

但シ本船々尾ト被曳船々尾トノ距離六百尺ヲ超ユルトキハ前記ノ白燈ノ外尚一個ヲ增揭ス（第三條）

被曳船　兩舷燈（第五條）

帆船　兩舷燈（第五條）

水先船　特殊用白燈（檣燈ニアラズ）同紅燈及兩舷燈（第八條）

尚一般ニ涉リテ航行中ノ船舶ハ他船ニ追越サレントスルトキハ船尾燈ヲ表示スルカ又ハ閃光ヲ發スベシ（第十條）

碇泊中ノ標識燈火

長サ百五十尺以内ノ船舶、碇泊燈一個（第十一條）
長サ百五十尺以上ノ船舶、碇泊燈二個（第十一條）
水先船（營業所ニ碇泊）白燈及閃火ノ外紅燈一個（第八條）
特殊狀態ノ船舶標識燈火
運轉自由ヲ得ザル船舶、信號用紅燈二個（第四條）
海底電信船又ハ引揚從事船、信號用紅燈白燈及紅燈ノ三個（第四條）
但シ本二項トモ船舶運行スルトキハ兩舷燈ヲ掲揚スベシ（第四條）
坐礁擱坐、碇泊燈ノ外信號用紅燈二個（第十一條）
閃火ヲ使用スル場合
一、水先船業務ノ爲メ其營業所ニアルトキ十五分時ヲ超エザル

短時ノ間隙ヲ以テ閃火一個若ハ數個ヲ發スベシ（第八條）
二、他船ニ追越サレントスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スベシ（第十條）
三、各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲メ必要ナリト認ムルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外ニ尙閃火ヲ發シ云々（第十二條）
如上燈火信號器具ノ種類及標識性質ニツキ略述セリ次ニ冗長ナレドモ燈火ニ關スル諸規定ヲ掲載スベシ
燈火信號器具ニ對スル規程
（イ）檣燈ニ關スル規定
第二條汽船航行中ハ必ズ左ノ燈ヲ掲グベシ
一、前檣若ハ其前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘザルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラザル所ニ若船幅二十尺ヲ超

ユルトキハ其船幅ヨリ低カラザル所ニ亮明ノ白燈一個ヲ掲グベシ然レドモ船體上四十尺以上ノ所ニ揚グルヲ要セズ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ二十點間ヲ照スベク製造シ其射光ヲ左右舷外ヘ十點間ヅヽ即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マデ及ブベキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

同條第五項

汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一個ヲ增掲スルヲ得但シ此場合ニ於テハ其兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其前燈ヲ後燈ヨリ少クトモ十五尺下方ニ掲ゲ其前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條

汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲グルノ外ニ白燈二個ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スベシ此白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲グルヲ要ス然レドモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カルヽ船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二個ノ白燈ヨリ上方若バ下方六尺ノ處ニ尙同種ノ白燈一個ヲ增掲スベシ

○檣燈ニ關スル試驗檢定規程第一章第四節

第三十九條　燈籠ノ大サハ第二十四條ノ規定ニ準ズベシ（卽チ第二十四條ハ燈籠ノ後面及側面ノ幅ハ各七寸五分以上其高ハ煙筒ヲ除キ九寸二分以上ナルヲ要ス）

第四十條　透鏡ノ横截内面ノ角度ハ二百四十度以上其高ハ半徑ノ長ヨリ少ナカラザルヲ要ス

第四十一條　火口ノ大サハ第二十九條ノ規定ニ依ルベシ（其第二十九條ハ

火口ハ石油ヲ使用スルトキハ幅八分以上ノ平燈心又ハ徑八分以上ノ輪形燈心、種油ヲ使用スルトキハ幅一寸五分以上ノ平燈心又ハ徑一寸五分以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ベキ適當ノ大ナルヲ要ス

第四十二條　反射鏡ノ横截内面ハ百二十度以上ノ角度ヲ有スルモノナルヲ要ス

（ロ）兩舷燈ニ關スル規定

第二條　汽船航行中ハ必ズ左ノ燈ヲ掲グベシ

二、右舷ニ綠燈ヲ掲グベシ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スベク製造シ其射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マデ及ブベキ樣裝置シ且ツ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

三、左舷ニ紅燈ヲ掲グベシ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スベク製造シ其射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マデ及ブベキ樣裝置シ且ツ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

四、本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得ザル樣ナスベシ

第三條　汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲グルノ外

云々

第四條ノ三節

本條ノ船舶全ク運行セザルトキハ舷燈ヲ掲グベカラズ然レドモ運行スルトキハ必ズ之ヲ掲グベシ

第五條　航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項及第三項ノ舷燈ノミヲ掲グベシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲グベカラズ

第八條ノ第二節

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スベシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

同條ノ第四節

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其營業所ニアリテ碇泊セザルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣燈ノ下方八尺ノ所ニ周圍少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキ紅燈一個ヲ增掲シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ掲グベシ

○兩舷燈ニ關スル試驗檢定規程第一章第二節

第二十四條　燈籠ノ後面及ビ側面ノ幅ハ各七寸五分以上其高ハ煙筒ヲ除キ九寸二分以上ナルヲ要ス

第二十五條　透鏡ノ橫截內面ハ百二十度以上ノ角度ヲ有シ其高ハ半徑ノ長ヨリ少カラザルヲ要ス

第二十六條　透鏡ハ舷燈ガ水平面ヨリ上下ニ各二十度傾斜スル

モ一海里以上ノ距離ヨリ燈光ヲ見得ベキ曲率ヲ有スルヲ要ス

第二十七條　燈窓ニ無色ノ透鏡ヲ使用スルトキハ透鏡ノ内面ニ接シ紅色又ハ綠色ノ良質ノ硝子ヲ挿入スベキ裝置ヲ設クルヲ要ス

第二十八條　前條ニ掲グル著色硝子ノ角度及ビ高ハ第二十五條ノ規定ニ依ルベシ

第二十九條　火口ハ石油ヲ使用スルトキハ幅八分以上ノ平燈心又ハ徑八分以上ノ輪形燈心、種油ヲ使用スルトキハ幅一寸五分以上ノ平燈心又ハ徑一寸五分以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ベキ適當ノ大サナルヲ要ス

第三十條　火口ハ幅八分ノ平燈心ヲ使用スルトキハ船ノ首尾線ニ直角ニ据ユルヲ要ス又幅八分以上ノ平燈心ヲ使用スル場合ニ於テ心ノ兩端ヨリ首尾線ニ直角ヲ爲ス二線ノ差ヲ八分以上一寸六分以下ト爲ストキハ火口ヲ首尾線ニ斜ニ据ユルモ妨ナシ

第三十一條　火口ヲ船ノ首尾線ニ直角ニ据ユルトキハ其ノ内端ヨリ又斜ニ据ユルトキハ其ノ後端ヨリ船ノ正横後二點ノ方位ニ引キタル線ハ透鏡ノ留金ノ前緣ヲ觸過スルヲ要ス

第三十二條　反射鏡ノ大サハ透鏡内面ノ諸點ヨリ焰穗ノ最輝點ヲ通ジテ引キタル線ヲ總テ反射鏡面ニ受ケシムルニ充分ナルヲ要ス

（ハ）紅白球燈ニ關スル規定

第四條　事變ノ爲メ運轉自由ヲ得ザル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最見得易キ

所ニ(汽船ナレバ其白燈ノ代リニ)二個ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スベシ此紅燈ハ周圍少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス(中略晝間記事)

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレバ其白燈ノ代リニ)三個ノ燈ヲ上下少クモ六尺ヅヽヲ隔テ連揭スベシ但シ此ノ燈三個ノ內上下ノ二個ハ紅色中央ノ一個ハ白色ニシテ周圍少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス

(中略晝間記事)

第三節略之

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得ズシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハザルノ信號ト認ムベシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スベカラズ難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第八條　水先船業務ノ爲メ其營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セズ周圍ヨリ見得ベキ白燈一個ヲ檣頭ニ揭ゲ且十五分時ヲ超エザル短時ノ間隙ヲ以テ閃火一個若ハ數個ヲ發スベシ

第二節及第三節略之

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其營業所ニアリテ碇泊セザルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣頭ノ下方八尺ノ所ニ周圍少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキ紅燈一個ヲ增揭シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ揭グベシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニヨリ紅燈ヲ增掲スベシ但シ舷燈ヲ掲グベカラズ

○信號用紅燈及白燈ニ關スル試驗檢定規程第一章第九節

第六十條　信號用紅燈及白燈ノ燈籠ニハ徑七寸以上ノ圓筒形透鏡若ハ直徑八寸以上ノ球形硝子ヲ使用スルヲ要ス

透鏡ノ高ハ第二十五條(舷燈ノ項)ノ規定ニ依ルベシ

第六十一條　信號用紅燈及白燈ノ火口ハ徑七分以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ベキ適當ノ大サナルヲ要ス

第六十五條　水先船用白燈及櫨櫂船用白燈ハ第五十八條及ビ第五十九條(碇泊燈ノ項)ノ規定ニヨルベシ

(ニ)碇泊燈ニ關スル規定

第十一條　長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ越エザル所ニ白燈一箇ヲ掲グヘシ

此燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周圍少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ゲ且船尾若ハ其最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同樣ノ白燈一個ヲ掲グベシ

本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルベシ

航路若クハ其最寄ニ於テ乘揚ゲタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二個ヲ掲グベシ

○碇泊燈ニ關スル試驗檢定規程第一章第八節

第五十八條　燈籠ハ徑六寸以上ノ圓筒形透鏡若ハ徑七寸以上ノ球形硝子ヲ使用スルヲ要ス

透鏡ノ高ハ第二十五條（舷燈ノ項）ノ規定ニ依ルベシ

第五十九條　火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ルベシ（第三十六條ノ規定ハ

火口ハ石油ヲ使用スルトキハ幅五分以上ノ平燈心又ハ徑五分以上ノ輪形燈心、種油ヲ使用スルトキハ幅一寸以上ノ平燈心又ハ徑一寸以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ヘキ適當ノ大サナルヲ要ス

（ホ）船尾燈ニ關スル規定

第十條　他船ニ追越サレントスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スベシ

本條ニ從テ表示スベキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レドモ此燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得キモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鍼盤ノ十二點間ヲ照スベク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及ブベキ樣隔板ヲ裝置シ成ルベク舷燈ト同一ノ高サニ掲クベシ

○船尾燈ニ關スル試驗檢定規程第一章第九節

第六十二條　船尾燈ノ燈籠ノ大サハ第三十三條ノ規定ニ準ズベシ（第三十三條ハ

燈籠ノ後面及側面ノ幅ハ各六寸以上其高ハ煙筒ヲ除キ七寸五分以上ナルヲ要ス

第六十三條　船尾燈ノ燈窓ニ使用スル透鏡ノ横截内面ハ百四十度以内ノ角度ヲ有シ其高ハ半徑ノ長ヨリ少カラザルヲ要ス

船尾燈ノ燈窓ハ彎形硝子ヲ使用スル事ヲ得

此場合ニ於テ其角度及ビ高ハ前項ノ規定ニ適合シ其厚サハ不同ナキモノナルヲ要ス

第六十四條　船尾燈ノ火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ルベシ（碇泊燈ト同ジ）

惡燈火ノ爲メ衝突シタル例

美代丸帆船正運丸衝突事件（裁決錄大正三年三五四頁）

帆船正運丸ハ風力減衰シタルニヨリ收帆シ專ラ機關ノミヲ使用シ一時間四海里ノ全速力ニテ乙種兩舷燈ノミヲ揭揚シ航行セリ美代丸ハ衝突二分前右舷船首約二點其距離六十間ニ突然正運丸ノ紅燈ヲ認メシニ依リ直チニ汽笛長聲一發ヲ吹鳴シ他船ノ注意ヲ喚起セシモ兩船著シク接近スルヲ以テ舵柄ヲ右舷一杯ニ取リ同時ニ機關ヲ全速力後退ニ命ジ汽笛三短聲ヲ連吹セシモ其効ヲ奏スル暇ナク衝突セシ事件ハ

帆船正運丸ニ於テ海上衝突豫防法ノ規定セラレタル船燈ヲ揭揚セザリシ爲メ著シク兩船接近スルニ至ル迄美代丸ニ於テ正運丸ヲ認メ得ザリシニ起因スルモノニシテ云々ノ裁決アリ又

久保丸土州丸衝突事件（裁決錄明治四十五年五五頁）

土州丸ノ檣燈ハ燻烟透鏡ヲ曇ラセ其光輝亮明ナラザリシ爲久保丸ニ於テハ接近スルニ至ル迄汽船ナル事ヲ認知セザリシモノニシテ此檣燈ノ燻リテ亮明ナラザリシ事本件ノ從因ヲ爲スモノトノ裁決アリ

又碇泊船ニ舫索ヲ取リタル後尙航海燈（檣燈及船）燈ヲ揭揚シ

海城丸第七新多賀丸衝突

他船ヲシテ航行船ト誤認セシメタル

海城丸第七新多賀丸衝突事件（裁決錄明治四十五年一二四頁）

主トシテ海城丸ガ北突堤ニ近寄リ航行スルニ方リ前路ニ深ク注意ヲ拂ハズシテ漫然進行シタルニ起因スト雖第七新多賀丸ガ他船ニ繫留シタル際航海燈ヲ迅速ニ船内ヘ取入レズシテ航行船ニ疑惑ヲ與ヘタルハ亦其責ヲ免レザルモノトス云々

ナル裁決アリ本法總則中第四項ノ

本法中船舶航行中トハ碇泊若クハ繫留又ハ坐礁膠沙ニアザル場合ヲ謂フ

ニ妥合シテ曳船ガ被曳船舶ニ繫留シ被曳船ガ抛錨セザル間ハ曳船ハ繫留狀態ニアリト云フニアリ

又碇泊燈掲揚ノマヽ航行ヲ開始シ衝突ヲ來シタル

加古川丸帆船衝突

北野丸松風丸衝突

加古川丸帆船第五號三浦丸衝突事件（裁決錄明治四十一年三七二頁）

第五號三浦丸ガ本船ノ膠沙中第一條第四項ノ規定ニ背キ單ニ碇泊燈一個ヲ掲ゲ置キタルノミナラズ離州後本船ガ港内ニ向ケ進航ヲ始ムルニ際シテモ尚第五條ノ規定ニ背キ兩舷燈ヲ掲ゲザリシ職務上ノ懈怠ニ起因シ云々

ノ如キアリ又曳船作業ヲナサヽル時ニ第三條ノ曳船燈ヲ掲揚シ他船ヲシテ曳船作業ト誤認セシメ衝突ヲナシタル

北野丸松風丸衝突事件（裁決錄大正三年一九四頁）

松風丸ハ汽笛短聲ヲ二發シ本船々首ヲ左轉中右舷船首約百八十間ノ處ニ於テ北野丸ノ檣燈二個ト共ニ其緑燈ヲ認メタルヲ以テ兩船ハ互ニ右舷側ヲ通過シテ無事替ハリ行クモノト信ジタルモ安全ヲ期セン爲メ當初ノ左舷ニ引續キ更ニ船首ヲ約一點半左

轉シタルニ本船ノ左轉ト前後シテ同船ノ綠燈隱滅シ踵テ其紅燈ヲ認ムルニ至レリ然ルニ北野丸ノ後方ニ被曳船アルヲ慮リタルト該被曳船ノ燈光ヲ認メザリシヲ以テ其長サヲ推測スルヲ得ザリシトノ爲メ同船ヲ本船ノ左舷側ニ替シテ被曳船ト第四突堤トノ中間ニ向ヒ進行スルヲ危險ナリト思惟シ且ツ本船ノ汽笛短聲二發ニ依リ北野丸ガ船首ヲ左轉スベキヲ豫期シテ其儘同船ノ前路ニ向ヒ進行シタルニ同船ハ豫期ニ反シ汽笛一聲ヲシテ之ニ應ジ依然綠燈ヲ示シテ進行シ來リ遂ニ兩船機關後退ヲ爲シタルモ遂ニ衝突セリ

本件衝突ハ主トシテ北野丸ガ後退運航ニ際シ海上衝突豫防法第二十八條第二項ノ規定ニ違反シ汽笛短聲ヲ三發シテ其行動ヲ他船ニ通知スルコトヲナサヾリシト獨走ノ場合ナリシニ拘ハラズ成規ニ違背シ檣燈二個ヲ掲ゲテ航行シ爲メニ松風丸ヲシテ避讓ノ措置ニ惑ハシメタルトニ基因ス云々

裁決錄上燈火ニ關スル事故ノ爲衝突ヲ惹起シタルモノハ上記ノ如キ惡燈ノ例ノ外尙船尾燈ヲ點火セザルモノ及ビ漁船ノ無燈ノモノ最多シ是畢究スルニ强制掲揚燈ナラザルニ起因スベシ是等ノ無燈及惡燈ノ場合ノ外又前掲ノ土州丸ノ如ク燈火燻烟ノ爲其亮明ヲ缺キシモノ亦少ナカラズ

サレバ燈火ニ關シテハ不斷ニ其光力ニ注意スル事肝要ナリ特ニ油燈ヲ使用スル船舶ニ於テ然リトス風位ノ關係掃除ノ不充分及油質ノ粗惡等ハ其ノ光力ヲ鈍ラスモノナルヲ以テ油燈ハ少クトモ夜半ニ於テ調整スルヲ要ス又電燈ト雖時ニ光力ヲ減殺スル事アリ明治四十四年十一月二十日和田岬附近ニ於テ衝突シタル

大智丸日高丸衝突事件ノ如キ（裁決錄明治四十五年四五一頁）

大智丸船長ガ入港ニ際シ機關長ヨリ注意アリタルニ拘ラズ船燈ノ光力如何ニ注意ヲ拂ハザリシ職務上ノ懈怠ニ起因ストテ懲戒處分ヲ受ケタル例アリ

而シテ各種ノ燈火中舷燈ノミハ其構造ニ於テ舷ヲ交リテ見エザル裝置ナリト雖舷ヲ交リテ見ユル事多ク此點ニ關シテスミス氏ノ著書中ニニ左ノ如キ記述アリ

『檢査人ニ與ヒラレタル現行規程ニハ一吋ノ燈心又ハ電球內線ノ內端ヨリ無角度ニ隔板ヲ施シ其隔板ヲ三十六吋トストアルニ燈心又ハ電球內線ノ外端ハ龍骨線上ニ於テ數理上一度三十ガ故六分ノ角度ヲナス

故ニ或ル區間ニ於テハ船首ヲ橫切リテ其光線ヲ見ルベシト雖其部分的ノ光線ハ漸次消滅ス亦其全光線ハ燈火ノ置カレタル舷側ニ於テ其燈火ノ眞正面ヨリ其舷側ニ輝クヲ見ルベシ

其燈火ノ外端ガ船首ヲ橫切ル角度ハ勿論其燈心又ハ電球內線ノ幅ニヨルモノナリ

檢査人ニ與ヘラレタル現今規程ニハ燈火ノ幅ハ船首尾線ニ直角ニ計リテ一吋以上二吋以內トアルヲ以テ二吋ノ極大ノ幅ノ場合ニ於テ三十六吋ノ隔板ヲ使用スル時ハ數理上三度十二分ノ角度ヲ以テ船首ヲ橫切ルベシ

實際ノ試驗ニ據レバ白熱電燈ヲ四十五呎ノ間隔ヲ置キ一吋ノ幅ノ燈火ヲ裝置シテ其內端ヲ無角度ニ隔板シタルトキ兩燈ノ中間ニ於ケル中心線上ニ於テ兩燈ノ橫切リテ見ユル角度左ノ如シ

二浬半ニ於テ　　兩燈一度十七分
二浬ニ於テ　　綠一度十九分一度十五分
一浬ニ於テ　　兩燈四度十三分
¼浬ニ於テ　　綠五度五十九分紅四度五十一分」

トアリ故ニ他船ノ兩燈火ヲ船首¼點ニ認メタルトキ其距離一浬以内ナラバ本船ノ兩燈火モ亦他船ニ見ユル事トナルヲ以テ¼點ノ交叉角ハ横切船ノ場合ニアラズシテ幾ンド眞向ノ場合ナリト云フベシ（參照第三章（イ）眞向ノ場合）然レドモ何レノ船舶モスミス氏ノ引證ト同一ナリト云ヒ能ハザルニヨリ自船ノ燈火ノ光達狀態ヲ實地知悉シ置ク必要アリト思惟ス又進ンデ船舶檢査法ニ於テ兩舷燈ノ設置個所ヲ檢定スルノ要アルベシト思惟ス

燈火信號器具ノ項ヲ了ラントシテ法文ニ疑義ヲ存スル第五條ニ就テ研究ヲナスベシ

第五條　航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲グベシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲グベカラズ

是レヲ英文ニ對照スルニ英文ニテハ

航行中ノ帆船及被曳船ハ航行中ノ汽船ニ掲揚スベキ本法第二條ニ記載セル燈火ノ中白燈ヲ除キ同條ニ記載セル同樣ノ燈火ヲ掲揚スベシ決シテ白燈ヲ掲揚スルヲ得ズ

トアルガ如シ「第二項第三項ノ舷燈ノミ」及「第一項」ナル字句ナシ蓋シ第二項第三項ハ舷燈ニ對スル引用項目ニシテ第一項モ亦白燈ニ對スル引用項目ナルベシ然レドモ舷燈ニ對スル引用項目ナラバ第四項ヲモ併記シテ完全ナル説明トナルベク亦白燈ニ

對シテハ第五項ヲ併記スベキニアラズヤ（英文ニ於テ白燈ハ複數ヲ以テ表示セリ）然レドモ是等ノ字句ノ相違ハ誤解ヲ招ク事少ナシト雖舷燈ノ次ニ「ノミ」ナル詞ノ挿入ハ大ナル誤解ヲ招ク事ナシトセズ現ニ或ル論者ハ此ノミナル詞ヲ採リテ被曳船ガ他船ニ追越サルヽ際第十條ノ船尾燈ヲ表示セズ又閃火ヲ發セザリシ事ヲ以テ決シテ違法ニアラズ被曳船ハ舷燈ノ外一切他ノ信號燈火ヲ要セズソハ第五條ニ舷燈ノミヲ掲グベシトアルニアラズヤト論斷セリ危險至極ト云フベシ此論者ノ如ク解釋シタランニハ帆船モ亦追越サルヽ際船尾燈ヲ表示スルノ要ナク閃火ヲ發スル要ナシト云フニ至ルベシ

（二）形象信號器具

形象信號ヲナス船舶及其信號ノ種類ハ

（イ）運轉自由ヲ得ザル船舶

直徑二尺ノ黑球若クバ黑色ノ形象二個（第四條）

（ロ）海底電信布設又ハ引揚ニ從事スル船舶

直徑二尺以上ノ形象三個但シ上下ノ二個ハ紅色球形ニシテ中央ノ一個ハ白色菱形（第四條）

（ハ）汽船帆ノミヲ以テ航行シ煙突ヲ降下セザル船舶

直徑二尺ノ黑球若クバ黑色形象一個（第十四條）

等ナリ

形象信號ニ關スル裁決例ハ明治四十年以降大正五年ニ至ル迄其例ニ乏シク僅カニ臨機處置ノ章ニ引用シタル神威丸江孚號接觸事件ニ於テ之ヲ見ルノミ

然レドモ潮壓ノ爲メ後方ニ流壓セラレテ運航ノ自由ヲ失ヒタ

ル船舶等ハ晝間ニ於テハ當然此形象信號ヲ爲スベキモノナルベシト思惟ス

大智丸和歌丸事件（裁決錄明治四十年二八二頁）ニ於ケル和歌丸ノ如キ（本編七七頁參照）當然本法形象信號ヲナスベキモノト思惟ス然レドモ裁決ニ於テ此點ニ關シ何等言及セザルヲ以テ暫ク疑問トシテ今後ノ研究ニ待ツ

（三）音響信號器具

音響信號器具ハ航路信號及霧中信號トシテ使用ス其種類ハ汽笛、汽角、霧中號角及號鐘ノ四種トス

而シテ汽笛及汽角ニ對シテハ何等ノ規程ナシ唯試驗檢定規程ニハ霧中號角ニ對シテ

其音響少クトモ一海里以上ニ達シ且ツ四秒乃至六秒時間宛發聲シ得ベキ構造ナルヲ要ス（同規程第六十六條）

トアリ又號鐘ニ對シテハ船舶檢査規程中ニ

其徑八吋以上ナルヲ要ス（同規程第六十九條）

トアル外其音響到達距離ニ對シ別ニ規程ヲ見ズ而シテ汽笛及汽角ニ關シテハ其徑及音響到達距離ニ何等ノ規定ナシ燈火ニ對スル精細ナル規定ニ對照シテ不備ノ感アリ

音響ノ種類ハ汽笛ニ左ノ規定アリ卽チ

長聲　四秒乃至六秒時間ノ發聲

短聲　大約一秒時間ノ發聲

ノ二種トス而シテ音響信號ヲナスベキ場合ハ

霧中航行ノ場合

本法航方ニヨリ航路變更ノ場合

ノ二トス

霧中信號

第十五條　航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウベシ

汽船ハ汽笛若クハ汽角

帆船又ハ他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其他之ニ代用スベキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若クハ汽角ヲ音響ノ防害物ナキ所ニ裝置シ且ツ號鐘及機關ノ作用ニヨリ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フベシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同樣ノ號鐘及號角ヲ備フベシ

霧中降雪其他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信

號ヲナスベシ

一、汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ長聲一發スベシ

二、汽船航行中運轉ヲ止メ速力ヲ有タザルトキニハ二分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ長聲二發スベシ但其二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

三、帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ右舷開ナレバ一聲ヲ發シ左舷開ナレバ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スベシ

四、船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスベシ

五、他船ヲ引キテ運航スル船舶海底電信布設若クハ引揚ニ從

事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得ズシテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハザルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハザル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スベシ又他船ニ引カレテ運行スル船舶モ此信號ヲナスハ妨ケナシト雖他ノ信號ヲ爲スベカラズ

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必ズシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セズ然レドモ其信號ヲ爲サヾルトキハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スベシ

明治四十年六月生月島ノ北西ニ於テ衝突シ溺死五名行衛不明二十六名ヲ生ゼシ

日英丸日ノ出丸衝突事件（裁決錄明治四十年三七三頁）

日英丸日ノ出丸衝突

兩船ガ霧中航行ノ際信號ヲナシタルモ第十五條ニ規定スル間隙以內ニ於テスル事ヲ怠リ且ツ第十六條ニ規定スル相當ノ措置ヲ施ス事ヲ怠リ云々

トアリテ霧中信號ヲ二分時以內ノ間隙ニ行ハザリシ爲メ兩船過度ニ接近シ遂ニ此大慘劇ヲ演ジタリ又

第一丸いろは丸衝突

第一丸いろは丸衝突事件（裁決錄大正三年三四二頁）

第一丸ハ二浬半ノ微速力ニテ航行中二三十間ノ距離ニいろは丸ノ碇泊セルヲ認メ舵柄右舷一杯ヲ命ズルト同時ニ機關ヲ停止シ船首左轉ヲ始メタルモ遂ニ衝突セシ事件ハ

第一丸ガ本條第一項ニ違背シいろは丸ハ本條第四項ニ違背シ兩者共ニ懲戒セラレタリ

汽笛ノ聞達距離ニ關シテハ信號器具ニ對シ豫防法上ニ何等ノ規定ナシ唯單ニ吹鳴時機ニ對シ二分時ヲ超ヘザル間隙ナル規定アルノミ而シテ此間隙ハ速力ニ對シ密接ノ關係ヲ有スレドモ霧中速力ニ對シ法ハ何等ノ數字的制限ナキヲ以テ此間隙ニ對スル交渉ハ研究セント欲スルモ其材料ナキニ苦シム立場トナレリ今二分時間ニ航行スベキ距離間隔ヲ研究スルニ一時間ノ速力ニ對シ二分時間ノ航行距離ハ

一時間ノ速力	二分間ノ航行距離	一時間ノ速力	二分間ノ航行距離
十二浬	四〇〇〇間	六浬	二〇〇〇間
十一浬	三六七間	五浬	一六七間
十浬	三三三間	四浬	一三三間
九浬	三〇〇〇間	三浬	一〇〇〇間
八浬	二六七間	二浬	六七間
七浬	二三三間	一浬	三三間

ナリ

霧中航行ノ項ニ述ベタル如ク霧中速力ハ霧堤ノ厚薄ノ度合ニ應ジ何時ニ於テモ視界ノ邊ニ停止狀態ヲ現出シ得ベキ程度ナラザル可カラズ故ニ吹鳴ノ程度モ高速力ノトキハ短時間ニ速力遲減スルニ從ヒ幾分長ク而シテ其最モ長キ間隔ヲ二分時トスルニアルベシ

次ニ霧中碇泊ニ對シ一分時以内ノ間隙ニ於テ激シク號鐘ヲ鳴スベシトアリテ停止狀態ニアル船舶ニ對シ反ツテ航行狀態ノ船

舶ヨリ短時間隔ニ信號ヲ命ジタルハ碇泊船ニ於テハ他船近寄ルモ何等速時ニ運行ヲ開始シ難キニヨリ航行船ニ向ツテ速カニ避讓措置ヲ要求シ自船ニ於テハ他船ノ信號ヲ聽取スルノ要少ナク他船ニ自船ノ存在ヲ(自船ガ運航シ能ハザルニヨリ)知ラシムル事ヲ極度ノ必要トスルガ爲ナルベシ故ニ號鐘ニ替フルニ碇泊船ガ汽笛ヲ吹鳴スルハ自船ノ存在ヲ知ラシムル手段トシテ巧妙ナルモ他船ニ採リテハ其汽船ハ第一項或ハ第二項ノ場合ニ在リテ運航シ得ベキ船舶ト解釋セラルベク相互相認識シタルトキハ他船ヨリ豫防法航方ニヨル航方ヲ要求セラレタル際反ツテ危險ヲ誘致スル事ナシトセズ此意味ニ於テ違法タリト云フベシ

航路信號

第二十八條　本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ云フ

航行中ノ汽船他船ニ近寄リ鍼路ヲ變ゼントスルトキハ汽笛若クハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鍼路ヲ通知スベシ

短聲一發　我船鍼路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發　我船鍼路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發　我船全速力ニテ後退ス

本條ヲ英文ニテ見ルトキハ本文ト些カ異ルヲ覺ユ英文ヲ直譯スレバ

第二十八條

相互視界ニアル船舶ノ音響信號

本條ニ用ヒラレタル短聲ナル詞ハ約一秒時間ノ吹鳴ヲ意味ス

航行中ノ汽船相互他船ヲ認メタルトキ本法ニ於テ强制セラレ

又要求セラレタルガタメアル針路ヲ採ルトキニハ左ノ信號ニ依リ其針路ヲ示スベシ

一短聲ハ　本船ハ針路ヲ右舷ニ轉ゼントス

二短聲ハ　本船ハ針路ヲ左舷ニ轉ゼントス

三短聲ハ　本船機關ハ全速力後退セントス

ト解セラル卽チ邦文ノ他船ニ近寄リト他船ヲ認メタル時トハ大ニ相違シ又本法規程ニヨリナル意味ノ詞ナシ故ニ邦文ニヨレバ霧中ニテモ他船ニ近寄リタルヲ目擊セズシテ知覺スルトキハ航路信號ヲナスヲ得ベク又本法規程ニヨルノ詞ナキヲ以テ他船トノ衝突ノ危險ナキ場合ニテモ他船ニ近寄リ本船ノ針路ヲ變ズル時ニハ航路信號ヲナスベク又航路信號ヲナス時ハ本法規程ノ航方ニ違反スル針路ヲ採ル事ヲ特ニ禁ゼザル如ク針路ヲ變ズルトキハ汽笛ヲ吹鳴シ自船ノ針路ヲ通告スベシト命ゼル如シ

尙短聲三發ハ機關全速力後退ニ非ズシテ自船ガ全速力後退セルトキノ信號ノ如シ然レドモ審判裁決錄ニ就テ見ルニ皆機關全速力後退ノ際ニ短聲三發ヲナセルヲ適法ト見做セリ

霧中信號中ノ注意喚起信號長聲一發ヲ航路信號ニ轉用シ自船ノ直航ヲ表示シ他船ニ避讓ヲ要求スル如キ習慣アリテ例セバ航路ニ群集セル漁船ニ對シ又權利船ガ義務船ニ對シ發スル場合アリ明治四十二年二月野忽那水道ニ於テ衝突セル神州丸對デバナ號事件及大正四年一月高井神島附近ニ於テ衝突シタル漳州丸對ハイソン號事件等ノ審判裁決書ニ

汽笛長聲一發ヲ吹鳴シテ其注意ヲ促シ云々

トアリテ是ヲ以テ違法トナサズ寧ロ其注意周到ナルヲ表示セル

ガ如シ然レドモ此注意喚起信號タルヤ他ノ航路信號ト紛雜セシメザルヲ要ス

本規定ノ航路信號タルヤ本法航方ニ伴フテ必ズ吹鳴セザル可ラズ衝突ノ危險豫防ノ爲メ適當ノ處置ヲ爲シタルニセヨ航路信號ヲ行ハザルトキハ對手船ニ自船ノ運航方法ヲ知ラシムル手段ヲ採ラザルモノトシテ懲戒ヲ受ケタル例多シ

笘島丸サイベリヤ號衝突

笘島丸サイベリヤ號衝突事件（裁決錄明治四十四年一四八頁）

サイベリヤ號ガ笘島丸ヲ追越シタル後那賀川丸トノ衝突ヲ避クル爲メ船首ヲ右轉シタトキ其汽笛信號ヲ行ハズシテ那賀川丸ノ左轉スルニ逢ヒ止ムヲ得ズサイベリヤ號ノ機關運轉ヲ全速力後退ニ爲シ其前進力ヲ減殺シタル結果遂ニ笘島丸ト衝突スルニ至リタルモノニシテ其汽笛信號ヲ行ハザリシハ海上衝突豫防法第二十八條ノ規定ニ違背シ且本件ノ一因トナリタルモノニシテ云々

トアリテ本場合ハ笘島丸ニ對シ追越ヲナシ那賀川丸ニ對シテハ横切リ船ノ場合避讓スベキ位置ニアリタルモノニシテ那賀川丸ニ對シ右轉避讓セシ際其航路信號ヲ行ハザリシヲ以テ那賀川丸ニ於テハ臨機船首ヲ左轉シ笘島丸及サイベリヤ號ノ兩船ヲ其右舷側ニ交ハシ航過セシ事實ニテサイベリヤ號ハ一旦追越シタル笘島丸ト衝突スルニ至レリ其近因ハ唯航路信號短聲一發ヲナスヲ怠リシニアリ

英文ニ於ケル「他船ヲ認メタルトキ」「本法航方ニヨリ轉針又ハ後退スルトキ」ナスベキ航路信號ヲ他船ヲ目認セザル場合ニ吹鳴セシ事ニ就テ審判裁決ニ於テハ違法トナシ懲戒處分ヲ與ヘ

タルモノ第三章ノ(ト)霧中航行ノ場合ノ項ニ引用セシ例ニ就テ見ルベシ

第六章　審判裁決錄ニ對スル事件

別索引（自明治四十年至大正五年裁決錄）

過去十年間自明治四十年至大正五年ノ審判裁決錄ヨリ重立チタル衝突事件ヲ事件別トシ索引ヲ作製シ參考ニ供ス

事件	場所	裁決錄
一、眞向又ハ幾ント眞向ノ場合		
第十八條違反		
音羽丸淡水號衝突	芝罘沖	四〇年—七一頁
第三幸運輸丸宮崎丸衝突	地藏岬沖	四一—二四七
須磨浦丸第三宇和島丸衝突	大角岬沖	—二六四
金國丸第二早鞆丸衝突	元山津沖	—二七七
同上（高審）	同上	—二八一
第五新多賀丸遼陽丸衝突	大阪港外	—三七九
久保丸土州丸衝突	梶島沖	四五—五五
大野川丸遠洋丸衝突	裸島沖	三—二八八
第三西宗丸第三下關丸衝突	加唐島沖	四—三六
黃金丸笠井丸衝突（高）	惠山岬沖	五—六八
群山丸義州丸衝突	佐賀關港	—二二六
英丸先山丸衝突	東一四一—八 北四三—二五	—三四六
右舷對右舷ノ場合（第十八條第四項違反）		
神州丸デバナ號衝突（高）	野忽那水道	四〇—一一四

秀吉丸陸奥丸衝突	惠山岬沖	四一—三二六
幸崇敬丸第一米子丸衝突	出雲大根岩	四五—七七
黄金丸笠井丸衝突	惠山岬沖	四—二〇
八幡丸馬來丸衝突	アルゼリア沖	—三一三

二、横切リ船ノ場合

第十九條違反

アバラチー號アゼニアン號衝突	横濱港口	四〇—二〇
光盛丸吉井川丸衝突	大阪港口	—六〇
臺北丸ホアンホー號衝突	門司港	—九九
神州丸デバナ號衝突	野忽那水道	—一一
大有丸浦門丸衝突	臺場鼻沖	—二〇三
同上（高審）	同	—二〇六
那賀川丸カルカス號衝突	和田岬沖	四一—四七
第五共同丸摩耶山丸衝突	和田岬沖	—八三
臺南丸壽丸衝突	佐柳島沖	—二二〇
攝海丸廣島丸衝突（高）	和田岬沖	—二四五
秀吉丸陸奥丸衝突（高）	惠山岬沖	—三二九
香推丸小鷹丸衝突	肥前高島沖	—四五二
滋賀丸弘前丸衝突	男木島沖	—四九三
弓張丸香取丸衝突（高）	巖流島沖	—五四九
住江丸日進丸衝突（高）	陸中明神鼻沖	—七四八
壽滿丸ザノニ號衝突	明石瀨戸	—七九八
膽振丸シドニー號衝突	觀音崎沖	四二—五七
三島丸東郷丸衝突	豐後水道	—二二四

第三幸丸長田丸衝突	和田岬沖	一五五二
大野川丸神祐丸接觸	尾鷲灣	一五八四
兵庫丸竹千代丸衝突	本山浮標沖	四三—二九三
久保丸土州丸衝突	梶島沖	四四—一七一
依姫丸軍艦大和衝突	北海道天賣島沖	四五—二〇八
神宮丸神天丸衝突	大角岬沖	二三五
盛丸第一凌波丸衝突	烏帽子燈臺沖	二—一六
同上(高審)	同	一七
神邦丸第七震天丸衝突	小呂島沖	二一九
辨天丸富喜丸衝突	横濱檢疫所	三—三一〇
朝日丸加古川丸衝突	平磯立標沖	三三〇
久滿加多丸蘭貢丸衝突	下關海峽東口	四—二三
日高丸福引丸衝突	男木島沖	一七二
敦賀丸天晴丸衝突(高)	北海道高島沖	五—一七三
伊吹丸駿甲丸接觸	葛登支燈臺沖	二五八

第二十一條違反

大有丸浦門丸衝突	臺場鼻沖	四〇—二〇三
第二共同丸摩耶山丸衝突	和田岬沖	四一—八三
攝海丸廣島丸衝突	和田岬沖	二四三
壽滿丸ザノニ號衝突	明石瀨戸	八〇二
大野川丸神祐丸接觸	尾鷲灣	四二—五八四
加茂川丸三浦丸衝突	和田岬沖	四三—七三
兵庫丸竹千代丸衝突	本山浮標沖	二九三
依姫丸軍艦大和衝突	北海道天賣島沖	四五—二〇八

第五福博丸千山丸衝突	地藏岬沖	二—一四五
高砂丸關東丸衝突	神子元燈臺沖	三—六九
朝日丸加古川丸衝突	平磯立標沖	—三三〇
久滿加多丸蘭貢丸接觸	下關海峽東口	四—二三
敦賀丸天晴丸衝突	北海道高島沖	—五一
速鳥丸第一太湖丸衝突	玄界島沖	—一六六
潭州丸ハイソン號衝突	高井神島沖	—二〇一
速鳥丸第一太湖丸衝突(高)	玄界島沖	—二六〇
滿珠丸唐山丸衝突	甫竹島沖	—二七六
八幡丸馬來丸衝突	アルゼリア沖	—三一三
同上(高審)	同	五—四一

第二十二條違反

大有丸浦門丸衝突(高)	臺場鼻沖	四〇—二〇六
秀吉丸陸奥丸衝突	惠山岬沖	四一—三二九
住ノ江丸日進丸衝突(高)	陸中明神鼻沖	—七四八
第二幸丸長田丸衝突	和田岬沖	四二—五五二
大野川丸神祐丸接觸(高)	尾鷲灣	—五八七
兵庫丸竹千代丸衝突	本山浮標沖	四三—二九三
依姫丸軍艦大和衝突	北海道天賣島沖	四五—二〇八
八幡丸馬來丸衝突(高)	アルゼリア沖	五—四一

第二十三條違反

大有丸浦門丸	臺場鼻沖	四〇—二〇三
同上(高審)	同	—二〇六
住ノ江丸日進丸衝突(高)	陸中明神鼻沖	四一—七四八

大野川丸神祐丸接觸	尾鷲灣	四二—五八四
依姫丸軍艦大和衝突	北海道天賣島沖	四五—二〇八
久滿加多丸蘭貢丸接觸	下關海峽東口	四— 二三
看視不充分		
弓張丸香取丸衝突	下關海峽	四一—五四七
住ノ江丸日進丸衝突	陸中明神鼻	—七四五
盛丸第一凌波丸衝突(高)	烏帽子岩沖	二— 一七
佐波川丸臺灣丸衝突	和田岬沖	四— 四五
漳州丸ハイソン號衝突	高井神島沖	—二〇一
松浦丸第二下關丸衝突	東一三〇—三〇 北三五—三〇	五—一七〇
敦賀丸天晴丸衝突(高)	北海道高島沖	一七三

三、追越船ノ場合

(第二十四條違反)

大智丸和歌丸衝突	下關海峽	四〇—二八二
宜蘭丸山口丸衝突	下關海峽	四一—一九二
幸運輸丸肥前丸衝突	肥前香燒瀨戸	—二九四
第一幸運輸丸熊本丸衝突	同通詞島瀨戸	—四三九
第四宇和島丸第一幸運輸丸衝突	豐後安藝岬	—五一四
喜多丸中越丸衝突	遼河	四三— 六五
愛鷹丸第一海運丸衝突	田子浦港	— 八九
苫島丸サイベリヤ號衝突	和田岬沖	四四— 二九
琉球丸神惠丸接觸	和田岬沖	— 三二
紀勝丸勝榮丸衝突	門司崎	四五— 二三
第二早鞆丸第三能登丸接觸	佐渡潮早崎	二— 四九

萬代丸うめか香丸接觸　下關海峽　三—二三
小浦丸ビユーロー號接觸　來島海峽　一—一一六
北勢丸オリエンタル號衝突　上海アストラ水道　三—三五三
喜佐方丸第二土運丸衝突　下關海峽　四—三〇〇
鶴江丸チボダス號衝突　東一二六—一五　北三〇—五〇　五—六三
第二十一條違反
新電信丸はるぴん丸接觸　明石瀨戸　五—一二三
第二十二條違反
宜蘭丸山口丸衝突　下關海峽　四—一九二

四、狹水路航行

第二十五條違反
第五宇和島丸敬神丸衝突　門司崎　四年—九〇頁
博愛丸薩摩丸衝突　明石瀨戸　—三一四
滋賀丸弘前丸衝突(高)　男木島沖　—四九七
日米丸鹿島丸衝突　若松港　四三—二〇七
第二隅田丸第三貞喜丸衝突　横濱港　四四—一二七
鶴江丸男島丸衝突　下關港　四五—五三
大貞丸德和號衝突　楊子江　三—三六一
久滿加多丸蘭貢丸接觸　下關海峽東口　四—二五
第八平安丸第二千代田丸衝突・鹽飽島　四—三九
ハイソン號コールデイヤ號衝突　男木島沖　—一〇一
千島丸漢城丸衝突　來島海峽　—一八九
同　上(高審)　來島海峽　—一九一
ハイソン號コールデーヤ號衝突(高)　男木島沖　—三四〇

第八平安丸第二千代田丸衝突　牛島沖　五—一七
第二萬盛丸千代丸衝突　大久野島沖　—九六
松山丸宮島丸衝突(高)　門司崎　—二三六
大孤山丸第一關西丸衝突　巖流島沖　—二七九
大孤山丸第二長久丸衝突　鍋島沖　—三二五

第二十七條違反

近江丸立神丸衝突　來島海峽　五—三一一
第二十七條違反ヲ主因トセシ衝突事件ハ殆ンドナシ唯本件ニ於テ之ヲ見ルノミ

五、出入港ノ場合

港則違反等

(イ)不當速力

敷島丸柏丸衝突　小樽港　四〇—二四六
香川丸筑後丸衝突　和田岬　四一—二〇八
姫島丸漣丸衝突　神戸港　四三—三二七
牛若丸共同運輸丸衝突　函館　四四—四三
神海丸操江號衝突　和田岬　四五—四
高陽丸德俊丸接觸　德島津田川　—七五
第三大運丸巴丸衝突　若松港　—二五四
利根川丸姉川丸衝突　大阪港　二—一〇〇
同上(高審)　—一一〇
辨天丸富喜丸衝突(高)　横濱港外　二—三一二
西京丸須磨丸衝突　門司港　三—三二一
利根川丸船運丸衝突　竹原港　四—一二五

別府丸	新電信丸	神戸港	五—一二四
（ロ）運航不適宜			
肥後丸	日清丸	函館港	四一—一三九
新川丸	大川丸	鹿兒島港	—四五七
龍田川丸	大瀬戸丸	門司港	—七六二
門司丸	須磨浦丸	品川港	四二— 一一
筑後川丸	彌彦丸	神戸港	—二五五
朝日丸	羽衣丸	鹽釜灣	四三— 七一
笠戸丸	笠井丸	門司港	—三九七
正義丸	簑島丸	下關港	四四—一三七
開運丸	中國丸	小樽港	—一九五
東郷丸	積丹丸	大阪港	四五— 七〇
漢城丸	接觸		
衝突	衝突		

十二度津丸	うめか香丸	下關港	—二一三
福宮丸	モントエーグル號	門司港	二— 六
印度丸	備後丸	基隆港	—六四
同上（高審）	衝突	同	—六五
彌彦丸	二十觀音丸	釧路港	—七一
勝榮丸	大磯丸	門司港	—八〇
しかご丸	遠江丸	門司港	—二一七
彌彦丸	二十觀音丸	釧路港	三— 五六
筑前丸	日光丸	横濱港	—
中越丸	三笠丸	營口	—一五五
壹岐丸	弘濟丸	下關港	—一六九
日光丸	明保野丸	下關海峽	—一八五
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		
接觸	衝突		

後志丸第二富丸接觸	下關港	一三〇一	
笠戸丸目尾丸大和丸接觸	門司港	一三二四	
日光丸明保野丸衝突(高)	下關海峽	四一 二七	
知多丸驅逐艦曙接觸	室蘭港	四一 四九	
喜佐方丸第二土運丸衝突	下關海峽	一一三五	
春日丸射水丸接觸	下關海峽	五一 七七	
近江丸土佐丸接觸	門司港	一 七九	
(八)潮 壓		八〇	
鹿兒島丸加陽丸衝突	門司港	四一 四一	
ウォーサン號辰丸門司丸接觸	門司港	一一七六	
吉林丸アスコット號接觸	門司港	一三五一	
電信丸みかど丸接觸	下關港	一七七一	

竹島丸雲南號接觸	上海港	四二一一二二
宮島丸新潟丸接觸	門司港	四三一五九九
琴平丸さくら接觸	門司港	四四一二三八
香取丸八幡丸さくら丸接觸	門司港	四五一 一〇
須磨丸光盛丸接觸	門司港	一二二四
インドーラワーデ號神國丸接觸	門司港	三一二〇五
富士山丸江永號接觸	上海	一三三六
タイデユウス號汐首丸接觸	門司港	一三三七
南越丸宮島丸接觸	仁川	四一二九五
松山丸丸宮島丸衝突	下關海峽	一三五三
立神丸嘉義丸衝突	門司港	五一 五三
高麗丸豐浦丸衝突(高)	下關港	一一四二

さかき丸シレシヤ丸	上海	一五四
神邦丸ボヘミヤ接觸		
(二)漫然航行		
隆盛丸臺北丸衝突	門司港	四〇—一七一
同上(高審)	同	一七三
幸盛丸幡陽丸接觸	土佐小才角港	一七九
竹島丸土州丸衝突	和田岬	三二九
長久丸そらち丸衝突	室蘭港	四一— 七
愛國丸平水號衝突	横濱港	四三—一〇一
豆州丸愛鷹丸衝突	伊豆子浦	四四— 四六
御室丸鹿兒島丸接觸	横濱港	二一三
神威丸江孚號接觸	上海	三—二五八
旺洋丸軍艦平戸衝突	佐世保	四— 七四
信幸丸水雷艇衝突	長崎港	一一〇
高麗丸豐浦丸接觸	下關港	二四五
春日丸平壤丸接觸	和田岬	五—一九一
高濱丸十一小野丸衝突	六連錨地	一九七
(ホ)舵機不注意		
壽丸日吉丸衝突	下關港	四二—六二九
三池丸肥後丸接觸	萩ノ濱	四三—二四六
綠川丸浪花丸衝突	門司崎	三〇二
須磨丸幸盛丸接觸	門司崎	四五—二二四
生駒丸日州丸接觸	上海港	三—一九一
第三出羽丸第一大龜丸衝突	羽前加茂港	二三五

六、霧中航行ノ場合

第十六條違反

日英丸	日之出丸	衝突	生月島沖
同上(高審)			同
第三共榮丸	八千代丸	衝突	津輕海峽
同上(高審)			同
日高丸	厦門丸	衝突	野忽那島沖
同上(高審)			同
擇捉丸	有明丸	衝突	東一三九—四八 北四一—五七半
同上(高審)			同
西貢丸	筑後川丸	衝突	利尻島沖
兵庫丸	笠間丸	衝突	小祝島沖
同上(高審)			同

五劍山丸	多賀丸	衝突	小豆島沖
大智丸	富貴丸	衝突	七發島沖
阿津丸	幸盛丸	衝突	五島前島沖
臺南丸	第一旭丸	衝突	巨文島沖
大井川丸	高盛丸	衝突	安治川
大智丸	富貴丸	衝突(高)	七發島沖
阿津丸	高盛丸	衝突(高)	五島前島沖
勢德丸	第三相澤丸	接觸	惠山岬沖
天成丸	御代丸	衝突	陸中三崎沖

七、燈火信號器具

第二條違反

勝丸	宮島丸	衝突	下關港

久保丸土州丸衝突	梶島沖	四四—一七一
大智丸日高丸衝突	和田岬沖	四五—二四一
同上（高審）	同	—二四三
第四福山丸幸運輸丸衝突	豐後水道	二—一九九
同上（高審）	同	—二〇〇
第二隱岐丸第三隱岐丸衝突	東一三三—一〇 北三五—五一	三—一二七

第三條違反

幸運輸丸うめか香丸衝突	長崎港	四三—一一七
北野丸松風丸衝突	神戸港	三—一九四

第十條違反

船玉丸第一幸運輸丸衝突	姫島南浦港	四二—五四四
新電信丸はるぴん丸衝突	明石瀬戸	五—一二三

第十一條違反

海城丸第七新多賀丸衝突	大阪築港	四五—一二四
下關丸昌漁丸衝突	下關港	三—一二二
第五唐戸丸三原丸衝突	下關港	—三六四

八、音響信號器具

第十五條違反

日英丸日之出丸衝突（高）	生月島	四〇—三七三
第一丸いろは丸衝突	國後島中ノ古丹	三—三四二
兵庫丸笠間丸衝突	小島祝沖	四— 五四
阿津丸幸盛丸衝突	五島前島沖	—三七五
同上（高審）	同	五—三〇二
天成丸御代丸衝突	陸中三崎沖	—三一九

第二十八條違反
竹島丸土州丸衝突　和田岬沖　四〇—三一九
惠比須丸白川丸衝突　神戸港　四一—九二
博愛丸薩摩丸衝突　明石瀨戸　四一—三一四
苫島丸サイベリヤ號衝突　和田岬沖　四四—二九
第二隅田丸第三貞喜丸衝突　横濱港　四四—一二九
辨天丸富貴丸衝突　横濱港外　三—三一〇
久滿加多丸蘭貢丸衝突　下關海峽東口　四—二五
大孤山丸第二長久丸衝突　鍋島沖　五—三二五

大正八年十月二十日印刷
大正八年十月二十五日發行
（非賣品）

著作者　坂井次郎　兵庫縣武庫郡須磨町須磨寺前下樋詰三番地
發行者　同上
印刷者　中村包治　兵庫縣武庫郡須磨町西須磨字下樋詰五番地ノ二
印刷所　大木印刷所　神戸市兵庫佐比江町五〇番地

不許複製

トエ2A-50

終